

科目名	人間福祉演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	00クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	家族心理学		
担当教員名	大野 祥子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳幼児期～成人に至るまでの個人の発達プロセスについては、既に学んでこられたことと思います。世代の異なる家族メンバーが、家族という関係の中でどのように出会うのか、ともに生活する中で、どのように関係を作り上げ、どのように発達していくかについて考えます。

科目の概要

この科目では、現代の家族問題について考えます。ジェンダーを主要な切り口に、家族心理学の知見に触れながら、親子関係や夫婦関係など、家族という人間の営み・家族関係にまつわる心理が、いかに社会文化的に規定されているものであるかを理解してほしいと思います。

学修目標 (= 到達目標)

1. 家族の中で個人 (大人・子ども) がどのように発達するかについて理解する。
2. 家族という関係は、ジェンダーや社会・文化、時代と深く関わっていることを理解する。
3. 自分の家族体験や家族観を相対化する視点を持つ。

内容

1	近代家族イメージの成立 (テキスト1,3,4章)
2	現代の家族 (テキスト2,5,6,7章)
3	現代女性のライフコースと家族 (テキスト21章)
4	育児ストレスとは何か (映像資料視聴)
5	育児ストレスはなぜ起こるか (テキスト18章)
6	家族役割分担 (テキスト8,9章)
7	日本の夫婦関係 (テキスト10, 11章)
8	性別役割分業とワーク・ライフ・バランス (テキスト12,13章)
9	家族ストレス (テキスト29章)
10	子どもの価値 (テキスト14,15章)
11	親子関係の発達 (テキスト14,15,16,17章)
12	家族システム論 (テキスト23,25章)
13	家族カウンセリング (テキスト20章)
14	新しい家族のかたち (テキスト27,28,30章)
15	まとめ

評価

授業内で行う小課題 (感想のコメントペーパー含む) 50% , 最終課題50% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストからその回の内容に該当する章（「内容」欄参照）を読み，わからない用語を調べ，図表の読み取りをしておくこと。その他に準備してほしいことがある場合は前の回に指示する。

【事後学修】テキストの該当章と授業ノートをふり返り，授業内容を理解したか確認すること。自分の意見はどうかを考えること。授業中に紹介された参考資料にあたり，発展的な学習をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦書】柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書

橘木俊詔・迫田さやか『夫婦格差社会』中公新書

【参考図書】授業中に紹介します。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度 ・ を設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度 は、高齢者福祉を学ぶ背景（高齢期の生活課題、少子高齢社会に伴う諸問題等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等の基礎的な理解を図る科目である。

科目の概要

高齢期と一概にいてもその時間的な幅の差大きく、各々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス、それらの歴史的変遷等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者を支援が必要な人として一面的に捉えるのではなく、生活の主体者と捉え、生活支援という視点からこれらの内容を学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

高齢者福祉を学ぶ背景（高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス、それらの歴史的変遷等について基礎的な知識を習得すること。

内容	
1	オリエンテーション、高齢期の生活
2	高齢期の生活、高齢者を取り巻く社会情勢
3	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷
4	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷
5	介護保険制度
6	介護保険制度
7	介護保険制度
8	介護保険制度
9	介護保険制度
10	老人福祉法
11	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律
12	高齢者の居住の安定確保に関する法律 / 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
13	地域包括ケアシステム
14	地域包括ケアシステムと今後の課題
15	まとめ

評価

振り返りのためのレポート（40点）、小テスト（10点×2回）、最終レポート（40点）とし、総合評価60点以上を

合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の住んでいる（もしくは親族が住んでいる）自治体が発行している介護保険制度に関するパンフレットを1部もらい良く読んでおくこと

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田進一・橋本正明編著『社会福祉士養成テキストブック高齢者に対する支援と介護保険制度』ミネルヴァ書房

【推薦書】

【参考図書】

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度 ・ を設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度 は、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等を理解した上で、高齢者福祉の具体的な援助や実践活動、その基盤となる考え方について学ぶ科目である。

科目の概要

高齢期と一概にいてもその時間的な幅の差は大きく、各々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス、それらの歴史的変遷等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者に対する支援と介護保険制度 で学んだ基礎知識をもとに、地域ケアにおける高齢者の生活支援に関する概念や仕組み等を学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

福祉専門職として高齢者の生活支援に必要となる概念や仕組みに関する知識を修得すること。

内容	
1	オリエンテーション、生活の主体者としての高齢者
2	介護福祉に関する概念（介護過程、介護予防、認知症ケア、終末期ケア、協働）
3	ケアマネジメント
4	ケアマネジメント
5	地域ケア（介護保険制度の実際）
6	地域ケア（介護保険制度の実際）
7	地域ケア（介護保険制度の実際と課題）
8	地域ケア（高齢者と地域福祉）
9	地域包括ケアシステム
10	地域包括ケアシステム
11	地域包括ケアシステム
12	地域包括支援センターの役割と実際
13	地域包括支援センターの役割と実際
14	まとめ
15	まとめ

評価

振り返りのためのレポート・課題レポート（40点）、小テスト（10点×2回）、試験（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の住んでいる（もしくは親族が住んでいる）自治体の第6期介護保険事業計画（平成27年度～平成29年度）に目を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田進一・橋本正明編著『社会福祉士養成テキストブック高齢者に対する支援と介護保険制度』ミネルヴァ書房

【推薦書】太田貞司(2003)『地域ケアシステム』有斐閣アルマ

【参考図書】

科目名	障害者福祉論		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に対応する科目であり、国家試験受験資格取得に必要な科目である。また介護福祉士資格取得のための指定科目である。

科目の概要

本科目では、（１）障害のある人の生活実態とこれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。（２）障害者福祉制度の発展過程について理解する。（３）相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害のある人の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

学修目標

授業内容についてテキストを精読することと、索引に登場する用語について調べ理解しておくことが求められる。その上で以下の点について理解できているかを目標とする。

- （１）障害のある人への福祉の歴史と理念について説明ができること
- （２）障害のある人の生活実態について説明できること
- （３）障害のある人への自立支援制度の概要とサービスについて説明できること
- （４）障害のある人への専門職のかかわりのポイントについて説明できること

内容

1	オリエンテーション、障害者福祉の視点
2	障害者福祉の歴史（欧米編）
3	障害者福祉の歴史（日本編）
4	障害者福祉の基本理念 各権利宣言・法制度
5	障害者福祉の基本理念 障害者福祉実践の展開
6	障害者の概念と障害者の実態
7	障害者福祉の法体系
8	障害者総合支援法
9	障害者福祉サービス
10	障害者福祉サービスにおける給付の仕組み
11	障害者福祉サービスにおける課題
12	障害者の生活保障
13	障害者福祉にかかわる専門職
14	障害者福祉の今後の展望、全体の振り返り
15	まとめ

評価

試験による評価（中間試験又はレポート2回各15点 前期試験60点）

平常（授業態度等）評価10点

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相澤譲治他『障害者への支援と障害者自立支援制度』みらい

推薦書・参考書等は随時紹介する

科目名	権利擁護と成年後見制度		
担当教員名	田中 満枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は社会福祉士の受験科目のひとつです。介護保険の制度と両輪の輪として制定された成年後見制度は契約時代における新たな権利擁護の制度として非常に重要な役割を担っています。

科目の概要

成年後見制度の概要・成年後見制度利用支援事業・成年後見制度に関する組織・団体の役割と実際を理解します。さらに成年後見制度を支えたり関連している関連法 (憲法、民法、行政法等) についても成年後見制度を支えるものとして理解します。

学修目標 (= 到達目標)

成年後見制度や成年後見人の役割などについて学ぶとともに社会的排除や虐待などの権利侵害や判断力に支援が必要になった方への権利擁護の実際を理解します。

あわせて成年後見制度を支えている法体系 (憲法・民法・行政法等) や関連する権利擁護のための制度等を理解します。

内容	
1	権利擁護にかかわる相談援助を学ぶために (第 1 章第 1 節)
2	自己紹介を兼ねて日本国憲法と私たちの暮らしを理解する (第 1 章第 2 節)
3	成年後見制度の 3 つの類型 (成年後見・保佐・補助) について (第 2 章第 1 節 ~ 第 3 節)
4	成年後見制度を利用するまでの道筋 (第 2 章第 4 節)
5	成年後見人を自分が選び契約する任意後見制度 (第 2 章第 5 節)
6	成年後見人としての義務と責任 (第 2 章第 6 節・第 7 節)
7	成年後見制度に関わる団体や専門職がどのように権利擁護に関わっているかを学ぶ (第 5 章)
8	権利擁護に携わっている先輩 (社会福祉士) の活動の実際 (第 6 章)
9	エピソードで学ぶ成年後見人等の事例をとおり成年後見制度の実際 (第 7 章)
10	相談援助と法律 (憲法や行政法等) との関係の理解 (第 1 章第 1 ~ 3 節)
11	家族、財産等について暮らしの中の民法の理解 (第 1 章第 4 節)
12	相談援助に必要な社会福祉関連法の理解 (第 1 章第 5 節)
13	成年後見制度周辺の制度 (日常生活自立支援事業等) の理解 (第 3 章・第 4 章)
14	まとめ
15	総復習

評価

(評価の方法 例：ペーパーテスト50点、レポート30点、出席20点など)

学習到達度テスト 14講目 5択テスト200問 成績評価 50%

小レポート 2題 (10講目～12講目までに課題を指示) 成績評価 24%

授業時の課題 (10分程度) 成績評価26%

授業外学習

【事前予習】テキストの該当箇所を読む

【事後学修】授業時のプリントやテキスト、資料、講義内容を復習し理解する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座 第19巻「権利擁護と成年後見制度」中央法規 ￥2,200(税別)

【推薦書】

【参考図書】・社会福祉士池田恵理子 池田後見支援ネット編 「エピソードで学ぶ成年後見人 身上監護の実際と後見活動の視点」民事法研究会 ￥1,400(税別)

・他の授業等で使用する小6法(民法が含まれているもの)は毎回持参してください。

科目名	心理学理論と心理的支援		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

[科目の性格・概要]: 以下の4点を軸に、日常生活で起きうる出来事を科学的に理解する講義です。

心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。

人の成長・発達と心理との関係について理解する。

日常生活とこころの健康との関係について理解する。

心理学支援の方法と実際について理解する。

[学修目標]

社会福祉・介護福祉の専門職として必要な心理学理論と心理学支援の方法について修得する。

[キーワード]

人の心理学的理解、人の成長・発達と心理、日常生活と心の健康、心理学的支援の方法と実際

内容

1	はじめに オリエンテーション
2	人の心理学的理解(1): 生物学的基礎、行動のメカニズム(欲求と動機づけ)
3	人の心理学的理解(2): 情動・情緒(ゆれる気持ちを考える)
4	人の心理学的理解(3): 学習のメカニズム(学習の法則、条件付け、洞察学習、モデリング)
5	人の心理学的理解(4): 個人差の理解(性格・人格・深層心理)
6	人の心理学的理解(5): 集団行動、社会的適応
7	人の成長・発達と心理(1): 発達段階とその心理的特質
8	人の成長・発達と心理(2): 各発達段階で乗り越えるべき課題
9	日常生活とこころの健康(1): 心と身体健康度
10	日常生活とこころの健康(2): 心と精神健康度
11	心理的支援の方法と実際(1): 心理査定の概要(観察・面接・検査)
12	心理的支援の方法と実際(2): 心理療法の概要(各種心理療法について)
13	心理的支援の方法と実際(3): カウンセリングの技法(きく技術の基礎と応用)
14	心理的支援の方法と実際(1): カウンセリングの理論(各種カウンセリング理論の紹介)
15	おわりに まとめ

評価

平常点(通常講義内のミニレポート)30点、筆記試験(期末試験)70点、で60点以上で合格とします。

授業外学習

【事前予習】当該週の内容に応じた、テキスト内容を読んでおく。

【事後学修】講義内で解説された内容・プリント・テキスト内容の統合をしておく。不明点は、質問する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤伸司・山口利勝 編著『心理学理論と心理的支援[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦図書】講義内で随時紹介します

【参考図書】霜山徳璽 監修『心理療法を学ぶ』有斐閣選書

水島恵一・岡堂哲雄・田畑 治 著『カウンセリングを学ぶ』有斐閣選書

中村 有 著『イラストとケースでわかる やさしくできる傾聴』秀和システム

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、主に社会保障の全体 (基本) を学ぶものである。社会福祉士指定科目でもある。

講義では、社会保障の意義・目的・機能、社会保障の歴史 (国内及び諸外国の動向)、負担と給付なあり方、社会保障制度改革の意味や方向性といった事がらを順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 現代社会における社会保障制度の課題 (少子高齢化と社会保障の関係を含む) について理解することができる。 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程を含めて理解することができる。 社会保障制度の体系と概要について理解することができる。

内容

[授業計画]

1	社会保障をとらえる視点
2	社会保障とは何か - 理念と目的
3	社会保障とは何か - 範囲と役割、機能
4	社会保障制度体系とは
5	社会保障度の歴史的展開 (諸外国)
6	社会保障度の歴史的展開 (諸外国つづき)
7	社会保障の歴史的展開 (日本)
8	社会保障の歴史的展開 (日本つづき)
9	社会保障の財源問題をどう考えるか
10	社会保障制度の現状と課題 (諸外国)
11	社会保障制度の現状と課題 (諸外国つづき)
12	日本における社会保障制度の現状と課題 (サービス体系)
13	社会保障制度改革の方向性と課題
14	福祉レジームモデルから社会保障政策の在り方を考える
15	授業のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読

【事後学修】授業終了時時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】阿部裕二編 『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第4版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	生活学概論		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間としての生活を考えるうえで、生活の諸相である衣生活・食生活・住生活・家族と家庭生活などについて学ぶことは、よりよい人生を過ごすために大切である。特にこの科目では、高齢期の生活にも重点をおき、問題点や課題などを見いだし認識を深める。これらを通して、日常の生活を充実させていくための総合的な視点と思考力を養い、実践できるようにする。授業形態は、講義を中心とするが、視聴覚機器や標本などを用いて現実の生活を想起させ、興味・関心を深めながら進めていく。

学修目標は次の通りである。

生活学概論の基礎的な知識と理論が理解できたか。

生活学概論を学ぶ方法論が身についたか。

他の科目と総合し、学問的な態度をもって実践することができるか。

内容

1	ガイダンス（科目の学び方とその視点）
2	被服の起源と役割 被服材料と被服管理
3	人体形態の把握と既製服サイズシステム
4	高齢者と障害者の被服
5	食生活と健康 栄養素の働き
6	食品の安全性
7	高齢期の食生活
8	家族と家庭生活 生活設計
9	家事労働と介護労働
10	消費者教育
11	高齢者と家族関係
12	住まいの役割と機能
13	生活行動と住まいのかたち 快適で安全な住まい
14	高齢者と障害者の住まい
15	まとめ（理論の実践化にむけて）

評価

平常点・課題40%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

2/3以上出席することで評価を受けられ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】衣生活・食生活・住生活・家族と家庭生活に興味や関心を持ち、ニュース・新聞・インターネットなどから情

報を集め視野を広げる。

【事後学修】資料を精読しまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	社会福祉の歴史		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間福祉学科専門科目であり、社会福祉基礎科目である。

1. 社会福祉をめぐる日本及び欧米の歴史について学び、さらに社会福祉の理念と意義について理解する。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物・思想・実践を紹介し、現在に継承されている思想・実践について学ぶ。
3. 適宜、タイムリーな話題、事例を引用して身近な内容とする。

1. 社会福祉をめぐる動向について理解し、歴史上重要な事項の概略を述べることができる。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物の内、興味ある人物について説明することができる。

内容		
1	オリエンテーション	社会福祉の歴史を学ぶ意義について
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の概念、範囲について
3	社会福祉の歴史：日本 1	日本における前近代の状況について
4	社会福祉の歴史：日本 2	日本における近代の状況について
5	社会福祉の歴史：日本 3	人物・思想・実践（前近代・近代）
6	社会福祉の歴史：日本 4	日本における近代から戦後にかけての状況について
7	社会福祉の歴史：日本 5	日本における戦後から現在に至る状況について
8	社会福祉の歴史：日本 6	人物・思想・実践（近代から戦後）
9	社会福祉の歴史：西洋 1	西洋における前近代から近代の状況について
10	社会福祉の歴史：西洋 2	人物・思想・実践（前近代・近代）
11	社会福祉の歴史：西洋 3	西洋における前近代から近代の状況について
12	社会福祉の歴史：日本と西洋	人物・思想・実践のまとめ グループ討議
13	興味ある歴史上の人物の紹介・グループ発表	
14	授業全体の振り返り	
15	まとめ	

評価

筆記試験（60点）レポート（20点）発表（10点）授業態度（10点）とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合にはレポート提出を行う。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートを整理し授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 よくわかる社会福祉の歴史 ミネルヴァ書房

【推薦書】 【参考図書】 随時紹介する

科目名	養護原理		
担当教員名	福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、保育士、社会福祉士を目指す人や子どもの相談機関、児童福祉施設等で働くことを目指している方に基礎となる科目です。また、相談援助や社会福祉施設での実習の際に必要な知識でもあります。

科目の概要

家族のもとで暮らせない子どもたちの現状とその意味をビデオも見ながら学びます。

学修目標（＝到達目標）

知識も大切ですが、社会的養護を必要とする子どもたちとその家族に対し、こだわりなく対応できる感性を持つことができるようになります。そのうえで、多くの福祉の知識を蓄積していきましょう。

内容	
1	はじめに、社会的養護とそれに関連する言葉
2	現代社会に暮らす子どもと家庭
3	子どもの権利
4	子どもの養護の歴史
5	社会的養護の体系：家庭・施設・里親
6	社会的養護の制度
7	施設養護の特質
8	施設養護の基本原則
9	施設養護の実際：日常生活及び自立支援
10	施設養護の実際：治療的・支援的援助
11	施設養護の実際：親子・地域との関係調整
12	社会的養護とソーシャルワーク
13	児童福祉施設の運営管理
14	社会的養護のあるべき姿へ
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、まとめの時間内レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】新聞等を日頃読んでいただいたほうが理解しやすいと思います。

【事後学修】各回ごとに前回の復習を期待します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山縣文治、小池由佳編著「社会的養護」ミネルヴァ書房

【推薦書】授業内で紹介します。

【参考図書】授業内で紹介します。

科目名	女性と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：1年生から4年生までの選択科目。履修者の社会福祉に関する知識に差が大きいので、履修者相互の学びあいをめざす。

科目の概要：少子高齢社会・人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。しかし、社会的文化的性差（ジェンダー）が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。

学修の目標：講義内容を自らの生き方と関連付けて理解し、社会保障・社会福祉の制度リテラシーの基本とすること。

内容

第4週から第14週の講義テーマについては、履修者の履修理由・希望等によって若干変更することがある。

1	少子高齢時代の持続可能な社会のビジョンとは
2	男女共同参画に関する政策・制度の変化とその影響
3	社会保障・福祉サービスに関する政策・制度の変化とその影響
4	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
5	児童の環境と出産・育児支援
6	母子・父子家庭の抱える問題
7	高齢者の自立と介護問題
8	障害者（児）の自立支援に関する問題
9	新たな貧困問題とホームレス
10	在日外国人の生活問題
11	売買春・セクハラ・DVの解決
12	福祉の仕事と教育
13	ボランティア・市民活動・NPOの役割
14	福祉を創りだした女性たち
15	レポートの報告と講評

評価

毎回の要点整理（20点）、期末レポート（80点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】推薦書のうち1冊を選択し、読んでおくこと。

【事後学修】毎回の講義内容の要点をまとめ、翌週提出すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』『ジェンダーで読む福祉社会』有斐閣選書
春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K
広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H
中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N
上野千鶴子・中西正司『ニーズ中心の福祉社会へ』医学書院 369.1/N
杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

相談援助の専門職としての基礎知識をテキストや事例によって学ぶ。

科目の概要

総合的かつ包括的相談援助の動向と専門職的機能の展開を理解することを目標とする。

そのために重要な役割としての権利擁護をはじめ、相談援助にかかわる専門職の概念と範囲及び専門 職倫理について理解する。また、諸外国の動向、及び現場で生じるジレンマの実際を学ぶ。

学修目標

ジェネラリスト視点に立つこと、及び他職種連携の意義を学ぶことからソーシャルワーカーとしての素地を作り上げる。

内容

1	相談援助における権利擁護の意義
2	相談援助専門職の概念と範囲
3	福祉行政等における専門職
4	民間の施設・組織における専門職
5	諸外国の動向：イギリス
6	諸外国の動向：ドイツ、アメリカ
7	専門職倫理の概念
8	専門職倫理
9	倫理的ジレンマ
10	倫理的ジレンマの実際
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な相談援助の意義と内容
12	ソーシャルワークにおける総合的・包括的な援助の実際
13	ジェネラリストの視点に基づく地域における他職種連携 (チームアプローチ) の意義と内容
14	総合的かつ包括的な相助と地域における他職種連携の意義と内容
15	まとめ

評価

レポート40点、試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ソーシャルワーク論 (テキスト前半の内容) の再読のうえ各章を事前に読む必要がある。

【事後学修】テキストの太字の用語、概念について振り返ること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書「相談援助の基盤と専門職」（新・社会福祉士養成講座）中央法規

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある。相談援助における専門的援助関係の特性について理解する。相談援助の過程について理解する。ソーシャルワークの定義について理解し、その概要を説明できるようになる。相談援助における専門的援助関係の特性とその重要性について理解し説明できる。相談援助の過程を理解し、その概要を説明できるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	ソーシャルワークの定義
3	専門的援助関係について：ラポール形成
4	専門的援助関係について：自己覚知
5	専門的援助関係について：利用者理解
6	援助の基本姿勢：バイスティックの7原則
7	相談面接技術 1
8	相談面接技術 2
9	相談援助の過程：インテーク、アウトリーチ
10	相談援助の過程：アセスメント
11	相談援助の過程：プランニング、モニタリング
12	相談援助の過程：評価、終結
13	相談援助の過程：効果測定
14	ケアマネジメントの定義とその過程
15	まとめ

評価

中間テスト30点、最終テスト70点の計100点より評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習 の内容を振り返り、自己覚知の定義について確認すること。

【事後学修】相談援助過程及び国内介護保険制度上のケアマネジメント過程について復讐すること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『ソーシャルワークの理論と方法 』(株)みらい 2010

その他授業中に指示。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある。システム論および生態学理論のモデルによってソーシャルワークを理解する。相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。システム論および生態学理論モデルによってソーシャルワークの一般的な定義を説明することができる。ソーシャルワークにおける3つの実践モデルをはじめ、各所アプローチの概要について説明することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	一般システム理論と生態学モデル
3	システム理論と家族療法
4	ソーシャルワークにおける3つの実践モデル
5	様々な実践モデルとアプローチ: 心理社会的アプローチ
6	精神分析理論について
7	様々な実践モデルとアプローチ: 機能的アプローチ
8	様々な実践モデルとアプローチ: 問題解決アプローチ
9	様々な実践モデルとアプローチ: 行動変容アプローチ
10	様々な実践モデルとアプローチ: 課題中心アプローチ
11	様々な実践モデルとアプローチ: エンパワメントアプローチ
12	様々な実践モデルとアプローチ: ナラティブアプローチ
13	相談援助における専門的援助関係: 感情転移と逆転移
14	相談援助における専門的援助関係: 自己覚知、自己の活用とスーパービジョン
15	まとめ

評価

中間試験30点、最終試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ソーシャルワーク論 で学習した専門的援助関係について確認すること。

【事後学修】相談面接の基本技術、ソーシャルワークの各理論モデルについて確認すること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『ソーシャルワークの理論と方法 』(株)みらい 2010

その他授業中に指示。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目の1つ「相談援助の理論と方法」である。「ソーシャルワーク論 から 」を踏まえて本科目を理解する必要があり、「相談援助演習 」との関連性がある。

科目の概要

1. 相談援助におけるアウトリーチ
2. 社会資源の活用・調整・開発や多職種・多機関との連携を含むネットワーキング
3. 集団を活用した相談援助(グループワーク)

学修目標 (=到達目標)

1. 相談援助におけるアウトリーチについて理解する。
2. 社会資源の活用・調整・開発や多職種・多機関との連携を含むネットワーキングについて理解する。
3. 集団を活用した相談援助について理解する。

内容

1	地域福祉総合支援体制に向けたソーシャルワーク
2	地域福祉総合支援体制に向けたソーシャルワーク2
3	アウトリーチの意義と目的
4	アウトリーチの方法と留意点
5	グループを活用した相談援助
6	グループワークの展開過程
7	自助グループを活用した相談援助
8	コーディネーションとネットワーキングについて
9	ソーシャルサポートネットワークについて
10	地域ケアシステムについて
11	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的
12	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点
13	ソーシャルアクションについて
14	事例に基づくサービス開発の展開方法について
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等20%、レポート30%と、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】これまで学修した地域福祉論とソーシャルワーク論の内容をふりかえる。

【事後学修】授業で示される図書、ホームページ、法律や政策、ソーシャルワーク実践方法、専門用語について各自で更に理解を深められるよう努力する。次回に向けて指示された事前学習は必ず取り組む努力をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントして授業時に持参すること。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

これまで学んだソーシャルワーク論 ~ をもとに、実践場面におけるソーシャルワークについて事例を通して学ぶ科目である。

科目の概要

スーパービジョン、個人情報保護、情報通信技術の活用、権利擁護活動の意味や意義を理解した上で、具体的事例検討を通して、ソーシャルワーク論の総合的な学修をする。

学修目標 (= 到達目標)

- ・スーパービジョン、福祉における情報、権利擁護活動の意味や意義を説明することができる。
- ・困難事例の支援過程をソーシャルワークの理論と方法を活用して考えることができる。

内容

1	オリエンテーション
2	福祉と情報 (情報共有と個人情報保護)
3	福祉と情報 (記録の方法と意義、ICT化)
4	福祉と情報 (問題解決の手法と思考法)
5	福祉と情報 (問題解決の手法と思考法)
6	スーパービジョン
7	スーパービジョン
8	権利擁護活動の意味、意義と実際 / 支援困難事例とは
9	支援困難事例のインテークとアセスメント
10	支援困難事例の支援計画
11	支援困難事例のソーシャルワーク実践モデルとアプローチ
12	支援困難事例のモニタリングと評価
13	支援困難事例の再アセスメント再支援計画
14	支援困難事例の評価と不足サービスの改善開発、困難事例検討と評価
15	まとめ

評価

振り返りのためのレポート (40点)、小テスト (10点 × 2回)、最終レポート (40点) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】新聞や雑誌、インターネット等で、各授業テーマに関する記事等を読み、その背景について考えること

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ソーシャルワーク論 ・ で使用した教科書

【推薦書】

【参考図書】

科目名	就労支援サービス論		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「就労支援サービス」に対応する科目であり、国家試験受験資格取得に必要な科目である。

科目の概要

本科目では、次の内容について主にテキストと関係法令をもとに講義によって学習する。

- (1) 相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解する。
- (2) 就労支援にかかわる組織、団体及び専門職について理解する。
- (3) 就労支援分野と関連分野との連携について理解する。

学修目標

授業内容についてテキストを精読することと、索引に登場する用語について調べ理解しておくことが求められる。その上で以下の点について理解できているかを目標とする。

- (1) 労働関連法令と近年の労働市場の変化について説明ができること
- (2) 障害のある人への就労支援サービスの概要について説明できること
- (3) 低所得者への就労支援サービスの概要について説明できること

内容	
1	オリエンテーション、「働くこと」の意味
2	労働市場の変化
3	労働に関する法律
4	労働に関する公的保険制度
5	障害者の就労の現状
6	障害者福祉施策における就労支援
7	障害者の就労における専門職の役割
8	障害者の就労における民間の取り組み
9	低所得者の就労の現状
10	低所得者の就労支援
11	低所得者の就労支援制度
12	低所得者の就労のための組織・団体・専門職の役割
13	就労支援の流れと職業リハビリテーション
14	就労支援サービスの今後の展望、全体の振り返り
15	まとめ

評価

試験による評価（中間試験15点前期試験60点）

レポート（15点）

平常（授業態度等）評価10点 とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会『就労支援サービス』中央法規

推薦書や参考所については随時紹介する。

科目名	児童・家庭福祉論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

少子・高齢化社会における児童・家庭福祉について講義、資料、及び事例等を通じて包括的に理解する。

科目の概要

ア 現代社会における児童・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（ひとり親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援等）と実際を理解する。

イ 児童・家庭制度の発展過程を理解する。

ウ 子供の権利（子どもの最大の利益を実現する視点）を理解する。

エ 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する。

学修目標

出生率の変化というマクロの社会状況と児童の成長発達というミクロの状況を視野に入れて、児童に係る課題を考えられるようになること。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、地域子育て支援等）
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）
5	児童福祉法
6	児童虐待の防止に関する法律
7	D V法の概要及び売春防止法の概要
8	母子及び寡婦福祉法
9	母子保健法
10	児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当の支給に関する法律の概要
11	次世代育成支援対策推進法・少子化対策推進法
12	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際（国・都道府県・市町村等の役割）
13	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と地域における他職種連携と実際
14	児童相談所の役割と実際
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキスト各章を一読しておく。

【事後学修】重要な概念、用語を振り返る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」 ミネルヴァ書房

参考図書 社会福祉六法

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。1年次履修「社会福祉概論」を踏まえて本科目を理解する必要がある。2年次前期履修「社会調査の基礎」、2年次後期履修「福祉行財政と福祉計画」、3年次後期履修「社会福祉施設経営論」、3年次後期履修「ソーシャルワーク論」、4年次前期履修「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について理解する。

学修目標

- 1.地域福祉の基本的考え方について理解する。
- 2.地域福祉の主体と対象について理解する。
- 3.地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する。
- 4.地域福祉の推進方法について理解する。

内容	
1	地域で安心して暮らし続けられるように1-地域福祉の意味-
2	地域で安心して暮らし続けられるように2-地域福祉の基本的な視点-
3	福祉教育の推進について
4	地域を基盤とする福祉教育の推進から地域福祉推進へ-地域福祉の主体と対象-
5	社会福祉法における地域福祉の推進
6	地域福祉における行政・社会福祉協議会の役割1
7	地域福祉における行政・社会福祉協議会の役割2
8	地域福祉における行政・社会福祉協議会の役割3
9	地域福祉における民間組織・住民の役割1
10	地域福祉における民間組織・住民の役割2
11	地域福祉における民間組織・住民の役割3
12	地域福祉の専門職と人材1
13	地域福祉の専門職と人材2
14	地域福祉の発達過程
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等20%、中間レポート30%、筆記試験40%とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】第1回までに第1,2章を通読しておく。授業時に事前に通読すべき章を示すので必ず読むよう努力する。

【事後学修】授業で紹介された図書、ホームページ、法律や政策、国家試験問題等について各自で内容を確認し、授業内容の理解を深めるよう努力する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】新社会福祉士養成課程対応 地域福祉の理論と方法 株式会社みらい

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。1年次履修「社会福祉概論」を踏まえて本科目を理解する必要がある。2年次前期履修「社会調査の基礎」、2年次後期履修「福祉行財政と福祉計画」、3年次後期履修「社会福祉施設経営論」、3年次後期履修「ソーシャルワーク論」、4年次前期履修「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について理解する。

学修目標(=到達目標)

1. 地域福祉の基本的考え方について理解する。
2. 地域福祉の主体と対象について理解する。
3. 地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する。
4. 地域福祉の推進方法について理解する。

内容	
1	地域で安心して暮らし続けるために-地域福祉論 のふりかえり-
2	共同募金活動の実際について
3	ネットワーキングの意味と方法
4	地域福祉における社会資源の意味と活用・調整・開発の実際1
5	地域福祉における社会資源の意味と活用・調整・開発の実際2
6	地域福祉における福祉ニーズの把握方法と実際1
7	地域福祉における福祉ニーズの把握方法と実際2
8	地域トータルケアシステムの構築方法と実際1
9	地域トータルケアシステムの構築方法と実際2
10	地域における福祉サービスの利用方法と実際1
11	地域における福祉サービスの利用方法と実際2
12	地域福祉計画策定プロセスと実際1
13	地域福祉計画策定プロセスと実際2
14	地域福祉の理論と方法をとらえる
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等20%、中間レポート30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】地域福祉論 の学修内容をふりかえる。授業時に事前に通読すべき章を示すので必ず読むよう努力すること。
- 【事後学修】授業で紹介された図書、ホームページ、法律や政策、国家試験問題等について各自で内容を確認し、授業内容を深めるよう努力する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【テキスト】新社会福祉士養成課程対応 地域福祉の理論と方法 株式会社みらい

科目名	社会調査の基礎		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士指定科目

社会調査の基本的知識を講義し、身近な調査・統計データの分析やアンケート調査票の作成などを通して、実践的に学ぶ。

学修目標は以下のとおり。

- 1) 社会調査の意義と目的および方法の概要を理解し、社会福祉援助技術における位置づけを理解する。
- 2) 統計法の概要、社会調査における倫理・個人情報保護について理解する。
- 3) 量的調査の方法および質的調査の方法について理解する。

内容

1	社会調査の意義と目的および対象、社会福祉援助技術としての留意点
2	統計法の概要および各種統計の利用方法
3	課題 : 統計データの活用と分析
4	社会調査における倫理および個人情報保護
5	量的調査の分類 - 全数調査と標本調査 (含サンプリング)、横断調査と縦断調査等
6	量的調査の方法 - 自計式調査と他計式調査、測定の水準、信頼と妥当性等
7	量的調査における質問紙の作成方法と留意点、配布と回収方法
8	量的調査におけるデータの集計と分析
9	課題 : 質問紙の作成と集計・分析例の検討
10	質的調査の方法 - 観察法・面接法
11	質的調査における記録と留意点
12	質的調査によるデータの整理と分析
13	質的調査の分析例の検討
14	社会調査におけるITの活用方法
15	レポート発表および講評

評価

授業中の課題3割、報告・発表1割、最終レポート6割とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】推薦書および初回授業に参考文献を紹介するので、社会調査の具体例を調べておく。課題およびレポートは提出するだけでなく、授業中に発表するので、その準備を行う。

【事後学修】講義ノートの整理を各自で行う。社会福祉士国家試験についての説明も行うので、受験を希望する学生は、国試対策に向けた学修を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：森岡清志編著「ガイドブック社会調査」第2版、日本評論社、2007

根本博司他編著「初めて学ぶ人のための社会福祉調査」中央法規

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座5社会調査の基礎」中央法規

科目名	福祉行財政と福祉計画		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要な科目で、社会福祉政策の中において特に福祉行財政と福祉計画の全体像を学ぶものである。社会福祉概論 ・ を学んだ上での授業展開内容であり、また社会保障論 ・ 、地域福祉の理論と方法、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、児童・家庭福祉論、保健医療サービス論といった科目に関連がある。なお、本科目は社会福祉士指定科目でもある。

講義では、福祉行政の意味・役割、国と地方の関係性（地方分権）、福祉行政機関、専門職配置、国及び地方における福祉財政、様々な福祉計画（国・都道府県・市町村）の概要、福祉計画の策定・実施・評価の過程といった事からについて順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。福祉行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解することができる。福祉行財政の実際について理解することができる。福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解することができる。

内容

[授業計画]

1	「福祉行財政と福祉計画」をとらえる視点
2	福祉の法制度 - 憲法を中心とした福祉の法的枠組み
3	福祉行政の実施体制 - 国レベル
4	福祉行政の実施体制 - 都道府県、市町村（区）レベル
5	社会福祉と地方自治、地方分権一括法の意味 - 法定受託事務、自治事務
6	自治体における社会福祉の行政機関 - 法的根拠と主な業務
7	自治体における社会福祉の行政機関 - 主な業務と専門職配置
8	福祉財政 - 国家財政（社会保障関係費）
9	福祉財政 - 地方財政（民生費）
10	福祉財源問題をどうとらえるか
11	福祉計画 - 必要とされた時代背景
12	福祉計画 - 国の基本計画
13	福祉計画 - 自治体における福祉計画、地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画等
14	福祉計画 - 自治体における福祉計画、障害者計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画等
15	福祉計画の策定過程、授業のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には、再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】池村正道編『福祉行財政と福祉計画 - 社会福祉行財政・福祉計画第2版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	社会理論と社会システム		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科専門科目のうちの選択科目。社会福祉士指定科目(社会福祉士受験資格取得のためには必修)

科目の概要

社会学の基礎を学ぶ科目であり、システムについての基礎的思考および集団、地域、家族などの社会学における概念の理解をめざす。その上で、社会福祉士に必要な専門性の裏付けとなる学問的体系を学ぶ。

学修目標(=到達目標)

- ・社会学における概念・理論・研究者の関係を歴史的に理解する
- ・社会学的な思考方法・アプローチを理解する。
- ・福祉専門職としての見識の基盤となる知識を身につける。

内容

1	社会学の目的・対象・方法・体系と社会システムの概念
2	法および経済と社会システム
3	社会変動の概念と近代化・産業化・情報化
4	人口の概念と人口構造・人口問題・少子高齢化
5	地域の概念と都市化・過疎化および地域集団・組織
6	社会集団の概念と組織－官僚制・市場主義・非営利革命
7	家族と世帯の概念
8	生活のとらえ方－ライフステージ・生活時間・生活様式・ライフスタイル・生活の質
9	社会関係と社会的孤立
10	社会的行為
11	社会的役割－ジェンダー
12	社会的ジレンマ
13	社会問題のとらえ方－社会病理・逸脱
14	現代の社会問題－差別・貧困・失業・自殺・犯罪・ハラスメント等
15	まとめ

評価

試験(50点)、レポート(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでおくこと。

【事後学修】講義の記録をノートにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回授業時に示す

【推薦書】講義の内容にあわせて紹介する

【参考図書】講義の内容にあわせて紹介する

科目名	公的扶助論		
担当教員名	長友 祐三		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

社会福祉士国家試験の受験資格を得るために履修を必要とする科目のひとつ。

科目の概要

公的扶助は社会保障制度のひとつで社会保険とともに国民の所得保障機能を担うものであり、生活保護制度がこれに該当する。生活保護制度は所得補償と併せて自立を支援するという社会福祉的機能も有しており、すべての国民の健康と文化的な最低限度の生活を保障する最後のセーフティネットと言われている。

学修目標（＝到達目標）

貧困・低所得者問題の最近の動向について理解する。貧困・低所得者対策について、その概念、歴史、法制度、さらには他職種連携をふまえた相談援助活動についてを学ぶ。公的扶助制度の中心となる生活保護制度の基本的な原理、原則を理解するとともに、最低生活保障における給付とサービスとは何かを理解する。

内容

1	公的扶助の概念
2	貧困・低所得問題と社会的排除
3	公的扶助制度の海外の歴史・日本の歴史
4	貧困・低所得対策の近年の動向
5	生活保護法の目的、基本原理、原則
6	生活保護の種類と内容
7	生活保護制度の保護施設、被保護者の権利と義務
8	最低生活保障の基準の考え方と実際
9	生活保護の動向
10	その他の低所得者対策
11	ホームレス支援の実際
12	生活保護の実施体制と福祉事務所
13	貧困低所得に対する相談援助活動
14	生活保護における自立支援
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、学期末のレポート50%、途中の小レポート20%の割合を評価基準とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストを参照のうえ、授業に参加してください。また、日頃から貧困・低所得 問題に関連する新

聞記事やニュース等について関心をもつようにしてください。

【事後学修】テキストを読み返して、確かな知識として修得するようにしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】新・社会福祉士養成講座第16巻 低所得者に対する支援と生活保護制度

【推薦書】新刊「貧困大国アメリカ」岩波新書

【参考図書】授業時に紹介します。

科目名	保健医療サービス論		
担当教員名	中島 園恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、相談援助において必要となる医療保険制度や保健医療サービスについて学ぶ科目です。社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の共通科目になっています。

科目の概要

医療と保健サービスの供給システムをめぐる枠組みを保健医療福祉政策の動向などから把握し、患者を主体的に、包括的に支援するために求められる各専門職の役割と連携などについて学びます。

学修目標（＝到達目標）

1. 医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）と保健医療サービスの基本的な知識が得られる。
2. 包括的な保険医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種連携について理解できる。

内容	
1	オリエンテーション
2	保健医療と法制度の歴史
3	医療保険の法制度と現状・課題
4	診療報酬制度の概要（1）
5	診療報酬制度の概要（2）
6	保健医療福祉政策の概要（1）
7	保健医療福祉政策の概要（2）
8	保健医療サービスと専門職の役割など（1）～各専門職の役割と機能分担～
9	保健医療サービスと専門職の役割など（2）～各専門職の機能と連携～
10	保健医療サービスと専門職の役割など（3）～患者・家族・地域などの非専門職との連携～
11	保健医療と福祉との連携の状況（1）～がん医療と保健医療福祉～
12	保健医療と福祉との連携の状況（2）～慢性疾患・難病への対応と保健医療福祉～
13	保健医療と福祉との連携の状況（3）～高齢者の主な疾患と保健医療福祉～
14	保健医療と福祉との連携の状況（4）～地域における保健医療福祉の現状と課題～
15	まとめ

評価

平常点（1割）、中間レポート（4割）、期末レポート（5割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】厚生労働省のホームページ（<http://www.mhlw.go.jp>）に掲載されている「我が国の医

療保険について」を読んでください。

【事後学修】講義で学んだ医療保険制度・保健医療サービスの概要から、自分や自分の住んでいる地域の場合を照らし合わせることで、より現実的に内容を理解してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】福祉臨床シリーズ編集委員会編、佐久間淳・幡山久美子責任編集(2013) 『保健医療サービス』? 第2版? 弘文堂

【推薦書】

【参考図書】教室で紹介します。

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要となる科目で、主に社会保険制度の全体と個別内容を学ぶものである。社会保障論 を学んだ上での授業展開内容であり、社会福祉士指定科目でもある。

講義では、社会保険の意味・特色・体系、年金保険、医療保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険の制度的特徴とその問題点を順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 社会保障 (社会保険) 制度の体系について理解することができる。

年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解することができる。

公的保険制度と民間保険制度の関係について理解することができる。

内容

[授業計画]

1	社会保険制度体系の中における社会保険の位置づけ
2	社会保険とは何か - その性格
3	社会保険とは何か - その役割と機能
4	給付と負担 - 社会保険方式と税方式とのちがい
5	年金保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
6	年金保険制度の概要 - 給付の種類と内容
7	医療保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
8	医療保険制度の概要 - 給付の種類と内容
9	介護保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
10	介護保険制度の概要 - 給付の種類と内容
11	雇用保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
12	雇用保険制度の概要 - 給付の種類と内容
13	労働者災害補償保険 - その特徴、受給要件、給付対象
14	労働者災害補償保険 - 給付の種類と内容
15	授業のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第4版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書については、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	更生保護制度		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、社会福祉士指定科目である。主に、更生保護制度の全体像を学ぶものである。「犯罪と福祉」という重い課題であるが、社会的排除が端的に現れやすい人権問題領域であるだけに、「人権と社会正義」を掲げる社会福祉が果たすべき役割は大きい。

講義では、司法福祉、刑事司法、更生保護法制、その歴史的展開、機構、手続き、対象者、担い手、等の事がらを順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 司法福祉（修復的司法を含めて）・刑事司法・更生保護制度の全体的なつながりを理解することができる。 犯罪を行ってしまった人への社会復帰支援の意味とその重要性を理解することができる。 更生保護制度とその運用全般を理解することができる。

内容	
1	刑事司法、更生保護とは
2	更生保護法とは
3	更生保護の歴史
4	更生保護の対象者と手続き - 非行少年
5	更生保護の対象者と手続き - 犯罪をした人
6	更生保護の具体的方法 - 仮釈放、保護観察等
7	更生保護の具体的方法 - 生活環境の調整、更生緊急保護等
8	更生保護制度の実施機構及び組織
9	更生保護制度の担い手
10	医療観察制度とは
11	他害行為を行った精神障害のある人の社会復帰支援の方法
12	高齢者・障害のある犯罪者の保護
13	就労支援の方法と課題
14	更生保護の今後の課題
15	全体のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】森 長秀編『社会福祉士シリーズ20 更生保護制度 - 司法福祉 - 第2版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じ、授業で随時紹介する。

科目名	社会福祉施設経営論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 福祉サービスの組織と経営と管理運営について理解するため、施設経営者 (理事、施設長) の立場で取り組む科目である。

科目の概要 福祉サービスに係る組織や団体 (主に社会福祉法人)、及び経営管理に係る集団力学、リーダーシップ理論等について

学修目標 一般企業の経営、管理運営理論の福祉サービスへの応用という視点を身につけること。

内容	
1	福祉サービスにおける組織・経営
2	福祉サービスと制度
3	福祉サービスに関わる地域における組織や団体 1 法人とは
4	福祉サービスに関わる地域における組織や団体 2 社会福祉法人
5	福祉サービスに関わる地域における組織や団体 2 社会福祉法人
6	福祉サービスに関わる地域における組織や団体 3 N P O 等その他の法人
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 1
8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 2
9	福祉サービスの管理運営の方法 1 サービス管理
10	福祉サービスの管理運営の方法 2 人事管理
11	福祉サービスの管理運営の方法 3 労務管理
12	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
13	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
14	福祉サービスの管理運営の方法 5 情報管理
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし合計60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】初めて目にする内容が多いため、テキストを一読しておくこと。

【事後学修】テキストにある重要な概念、事項を振り返ること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング(与えること受け取ること)
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング(ブラインド・ウォーク)
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習 で学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング(与えること受け取ること)
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング(ブラインド・ウォーク)
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習 で学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習 で学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	太田 真智子、宮城 道子、大山 博幸、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

授業外学習

- 【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと 必要な場合は発表の準備をしておくこと
- 【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

授業外学習

- 【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと 必要な場合は発表の準備をしておくこと
- 【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

授業外学習

- 【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと 必要な場合は発表の準備をしておくこと
- 【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

授業外学習

- 【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと 必要な場合は発表の準備をしておくこと
- 【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

授業外学習

- 【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと 必要な場合は発表の準備をしておくこと
- 【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

授業外学習

- 【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと 必要な場合は発表の準備をしておくこと
- 【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

授業外学習

- 【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと 必要な場合は発表の準備をしておくこと
- 【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

- 1.地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
- 2.地域福祉の計画策定手法を理解する。
- 3.ネットワーキングを理解する。
- 4.社会資源の活用・調整・開発を理解する。
- 5.サービス評価について理解する。

内容

- 1.地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
- 2.地域をとらえる
- 3.地域理解 アセスメントについて
- 4.アウトリーチとニーズ把握の方法
- 5.地域における社会資源
- 6.近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
- 7.近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
- 8.ワーカーの関わり
- 9.ワーカーの視点 ネットワーキング
- 10.支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
- 11.既存サービス以外の支援方法の検討
- 12.サービス開発
- 13.サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
- 14.地域福祉の計画策定手法について
- 15.まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回の課題作成内容20%、演習における発言及び口頭発表20%、レポート等50%とし、総合

評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえる。基本的なソーシャルワークに関する専門用語を理解しておくこと。

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、指示される次回への必要な学習について必ず取り組み、テキストや用語辞典でソーシャルワークに関する理解を深める努力をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。
3. ネットワーキングを理解する。
4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。
5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉の計画策定手法について
15. まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回の課題作成内容20%、演習における発言及び口頭発表20%、レポート等50%とし、総合

評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえる。基本的なソーシャルワークに関する専門用語を理解しておくこと。

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、指示される次回への必要な学習について必ず取り組み、テキストや用語辞典でソーシャルワークに関する理解を深める努力をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	10クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。
3. ネットワーキングを理解する。
4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。
5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉の計画策定手法について
15. まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回の課題作成内容20%、演習における発言及び口頭発表20%、レポート等50%とし、総合

評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえる。基本的なソーシャルワークに関する専門用語を理解しておくこと。

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、指示される次回への必要な学習について必ず取り組み、テキストや用語辞典でソーシャルワークに関する理解を深める努力をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽、大山 博幸、栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。
3. ネットワーキングを理解する。
4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。
5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉の計画策定手法について
15. まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回の課題作成内容20%、演習における発言及び口頭発表20%、レポート等50%とし、総合

評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえる。基本的なソーシャルワークに関する専門用語を理解しておくこと。

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、指示される次回への必要な学習について必ず取り組み、テキストや用語辞典でソーシャルワークに関する理解を深める努力をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	宮城 道子、佐藤 陽、太田 真智子、富井 友子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」（本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」）との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。
3. ネットワーキングを理解する。
4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。
5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉の計画策定手法について
15. まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回の課題作成内容20%、演習における発言及び口頭発表20%、レポート等50%とし、総合

評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえる。基本的なソーシャルワークに関する専門用語を理解しておくこと。

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、指示される次回への必要な学習について必ず取り組み、テキストや用語辞典でソーシャルワークに関する理解を深める努力をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」（本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」）との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。
3. ネットワーキングを理解する。
4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。
5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉の計画策定手法について
15. まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回の課題作成内容20%、演習における発言及び口頭発表20%、レポート等50%とし、総合

評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえる。基本的なソーシャルワークに関する専門用語を理解しておくこと。

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、指示される次回への必要な学習について必ず取り組み、テキストや用語辞典でソーシャルワークに関する理解を深める努力をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年		ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。
3. ネットワーキングを理解する。
4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。
5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉の計画策定手法について
15. まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回の課題作成内容20%、演習における発言及び口頭発表20%、レポート等50%とし、総合

評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえる。基本的なソーシャルワークに関する専門用語を理解しておくこと。

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、指示される次回への必要な学習について必ず取り組み、テキストや用語辞典でソーシャルワークに関する理解を深める努力をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討 1 (ねらいと手順の説明)
3	ワークシートを用いた事例検討 2 (各グループごとシェア)
4	ワークシートを用いた事例検討 3 (各グループごとにシェア)
5	ワークシートを用いた事例検討報告 4 (全体で報告、質疑)
6	ワークシートを用いた事例検討報告 5 (全体で報告、質疑)
7	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
8	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 1 (説明)
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 2 (実施)
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 3 (実施)
12	実習経験と専門知見との関連生成・統合 1
13	実習経験と専門知見との関連生成・統合 2
14	相談援助・ソーシャルワークにおけるキーワードの整理
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価 (40%) する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める (60%) 。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸、太田 真智子、栗原 直樹、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討 1 (ねらいと手順の説明)
3	ワークシートを用いた事例検討 2 (各グループごとシェア)
4	ワークシートを用いた事例検討 3 (各グループごとにシェア)
5	ワークシートを用いた事例検討報告 4 (全体で報告、質疑)
6	ワークシートを用いた事例検討報告 5 (全体で報告、質疑)
7	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
8	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 1 (説明)
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 2 (実施)
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 3 (実施)
12	実習経験と専門知見との関連生成・統合 1
13	実習経験と専門知見との関連生成・統合 2
14	相談援助・ソーシャルワークにおけるキーワードの整理
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価 (40%) する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める (60%)。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	相談援助演習		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討 1 (ねらいと手順の説明)
3	ワークシートを用いた事例検討 2 (各グループごとシェア)
4	ワークシートを用いた事例検討 3 (各グループごとにシェア)
5	ワークシートを用いた事例検討報告 4 (全体で報告、質疑)
6	ワークシートを用いた事例検討報告 5 (全体で報告、質疑)
7	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
8	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 1 (説明)
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 2 (実施)
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 3 (実施)
12	実習経験と専門知見との関連生成・統合 1
13	実習経験と専門知見との関連生成・統合 2
14	相談援助・ソーシャルワークにおけるキーワードの整理
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価 (40%) する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める (60%) 。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討 1 (ねらいと手順の説明)
3	ワークシートを用いた事例検討 2 (各グループごとシェア)
4	ワークシートを用いた事例検討 3 (各グループごとにシェア)
5	ワークシートを用いた事例検討報告 4 (全体で報告、質疑)
6	ワークシートを用いた事例検討報告 5 (全体で報告、質疑)
7	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
8	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 1 (説明)
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 2 (実施)
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 3 (実施)
12	実習経験と専門知見との関連生成・統合 1
13	実習経験と専門知見との関連生成・統合 2
14	相談援助・ソーシャルワークにおけるキーワードの整理
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価 (40%) する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める (60%) 。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	相談援助演習		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討 1 (ねらいと手順の説明)
3	ワークシートを用いた事例検討 2 (各グループごとシェア)
4	ワークシートを用いた事例検討 3 (各グループごとにシェア)
5	ワークシートを用いた事例検討報告 4 (全体で報告、質疑)
6	ワークシートを用いた事例検討報告 5 (全体で報告、質疑)
7	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
8	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 1 (説明)
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 2 (実施)
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 3 (実施)
12	実習経験と専門知見との関連生成・統合 1
13	実習経験と専門知見との関連生成・統合 2
14	相談援助・ソーシャルワークにおけるキーワードの整理
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価 (40%) する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める (60%) 。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	相談援助演習		
担当教員名	福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討 1 (ねらいと手順の説明)
3	ワークシートを用いた事例検討 2 (各グループごとシェア)
4	ワークシートを用いた事例検討 3 (各グループごとにシェア)
5	ワークシートを用いた事例検討報告 4 (全体で報告、質疑)
6	ワークシートを用いた事例検討報告 5 (全体で報告、質疑)
7	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
8	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 1 (説明)
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 2 (実施)
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 3 (実施)
12	実習経験と専門知見との関連生成・統合 1
13	実習経験と専門知見との関連生成・統合 2
14	相談援助・ソーシャルワークにおけるキーワードの整理
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価 (40%) する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める (60%)。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討 1 (ねらいと手順の説明)
3	ワークシートを用いた事例検討 2 (各グループごとシェア)
4	ワークシートを用いた事例検討 3 (各グループごとにシェア)
5	ワークシートを用いた事例検討報告 4 (全体で報告、質疑)
6	ワークシートを用いた事例検討報告 5 (全体で報告、質疑)
7	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
8	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 1 (説明)
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 2 (実施)
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 3 (実施)
12	実習経験と専門知見との関連生成・統合 1
13	実習経験と専門知見との関連生成・統合 2
14	相談援助・ソーシャルワークにおけるキーワードの整理
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価 (40%) する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める (60%)。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	介護と倫理		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。

授業の概要

1. 倫理学をベースとし、社会福祉哲学・思想・倫理観について学習する。

学修目標

介護福祉士の基盤となる、「倫理」「規範」「尊厳」「自立」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容

1	前期オリエンテーション 求められる介護福祉士とは何か
2	介護と倫理 倫理とは何か
3	介護と倫理 倫理とは何か
4	介護と倫理 社会福祉哲学からのアプローチ
5	介護と倫理 社会福祉哲学からのアプローチ
6	介護と倫理 思想からのアプローチ
7	介護と倫理 思想からのアプローチ
8	介護と倫理 介護福祉士法による倫理綱領
9	介護と倫理 他専門職団体による倫理綱領
10	介護と倫理 高齢者虐待防止法
11	介護と倫理 事例検討～抑制について～
12	介護と倫理 事例検討～虐待行為～
13	介護と倫理 事例検討～虐待行為～
14	介護と倫理 求められる介護福祉士像
15	まとめ

評価

1. レポート 20%、2. 筆記試験 80%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

藤谷 秀・横山 貴美子『介護福祉のための倫理学（介護福祉士のための教養学 4）』

弘文堂

他オリジナル資料配付。

科目名	介護と自立		
担当教員名	久保田 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける介護の基本に関する科目のひとつです。「その人らしい自立」「自立に向けた介護」について様々な視点から学びます。

科目の概要

はじめに、様々な「自立」の概念を学びます。各年齢に応じた自立、心身の障がいを持ちながらの自立、他者との関係の中での自立、など概念としての「自立」について考えていきます。

次に、動作の自立について学びます。身体を動かして自ら感じ取ることや他者の動きを観察することを通してその人の潜在能力を引き出す介護方法を学びます。また、その人に適した車椅子・装具・自助具等の道具の利用方法について学びます。

さらに、実際の介護場面での「自立に向けた介護」がイメージできることを目指して、医療・福祉現場での実践事例の紹介、自立を支える様々な専門職からのレクチャーなどを予定しています。

学修目標

1. その人らしい自立とは何かを理解する。
2. 動作の自立をみずえた介護方法を理解し、簡単な実践ができる。
3. 自立した生活を支えるために多職種連携が必要であることについて理解し、イメージができる。

内容

1	自立とは
2	その人らしい自立
3	ICFの理解（1）総合的な視点としてのICF
4	ICFの理解（2）隠れたプラスの側面を引き出すICF
5	自立に向けた介護（1）立位保持、立位での動作
6	自立に向けた介護（2）歩行の観察
7	自立に向けた介護（3）車いすの理解
8	自立に向けた介護（4）座位姿勢保持の工夫
9	自立を支える専門職（1）
10	自立を支える専門職（2）
11	自立を支える専門職（3）
12	医療・保健・福祉現場での実践事例（1）
13	医療・保健・福祉現場での実践事例（2）
14	医療・保健・福祉現場での実践事例（3）
15	まとめ

評価

授業への参加度(30%)、毎回のレポート(30%)、口頭発表(20%)、筆記試験(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行いません。

授業外学習

【事前予習】事前配布資料を読み、概要を理解する。

【事後学修】特に復習が必要な項目については授業内にて示す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用しない。必要に応じ随時プリントを配布する。

【推薦書】野尻晋一著『リハビリ介護入門-自立に向けた介護技術と環境整備』中央法規

科目名	介護と環境		
担当教員名	織田 つや子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、介護福祉士養成課程カリキュラムにおける科目の一つです。

科目の概要

利用者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたいという思いを支えるためには、安全の確保とリスクマネジメントは不可欠です。介護におけるリスクマネジメントの考え方を理解し、事故や感染症対策の具体的手法を学びます。またそのためにも介護者自身の心身の健康は重要であり、健康管理に必要な基礎的知識と技術を学びます。

学修目標（＝到達目標）

授業の形式は、講義およびグループワークによる演習です。毎回、授業後に演習シートにより、授業を振り返り、理解を深めます。

学修目標は、介護における安全の確保とリスクマネジメントを利用者の立場、介護福祉士の立場から理解できるようになることです。

授業では、学び、理解するだけでなく、グループワークを通して、共に学び、考えを深めてほしいと思います。そしてリスクマネジメントは、利用者の自立を支援することと表裏一体のことで、現場で仕事をしていくうえで、ずっと考え続けていくものです。その礎となるものをこの授業で得ていただきたいと思います。

内容

1	オリエンテーション
2	介護における安全の確保 （1）介護における安全の確保の重要性
3	介護における安全の確保 （2）安全確保のためのリスクマネジメント
4	介護における安全の確保 （3）事故・トラブルを繰り返さないための検討
5	事故防止・安全対策 （1）事故防止・安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み
6	事故防止・安全対策 （2）演習・事例検討
7	事故防止・安全対策 （3）生活の中のリスクと対策
8	事故防止・安全対策 （4）演習
9	感染管理のための方策 （1）生活の場での感染対策・演習
10	感染管理のための方策 （2）感染対策の基礎知識・演習
11	介護に携わる人の健康管理 （1）健康管理の意義と目的
12	介護に携わる人の健康管理 （2）心の健康管理
13	介護に携わる人の健康管理 （3）からだの健康管理
14	安心して働ける職場づくり 労働環境の整備
15	まとめ

評価

[単位認定の方法及び基準]

毎回、授業後に記入する演習シート 50点、授業態度・グループワークへの参加する姿勢 10点、学修目標に関するテスト 40点により、評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合には、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】実習先や今までの介護経験の中から、ヒヤリと思ったこと、危険だと思ったことを振り返っておいてください。

【事後学修】授業で学んだことを実際の介護場面で生かせるよう、しっかり復習してください。また、国家試験の問題集などのい取り組んで、理解を深めてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成講座編集委員会『新・介護福祉士養成講座4 介護の基本』中央法規出版

三好明夫編著『介護福祉学 介護福祉士の専門性と独自性の探究』学文社

科目名	介護と地域		
担当教員名	小川 政博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

介護実践を行う際に必要な社会資源把握の視点、活用法を事例を通して学びます。「地域福祉論 ・ 」と関連があります。

科目の概要

これまで理解した「介護」について改めて振り返りつつ、「地域」という概念との関連の理解を深めます。

学修目標（＝到達目標）

実際に介護実践を行う際に必要な地域連携の知識と実践方法の習得と併せて、関係機関担当者にわかりやすく説明できるコミュニケーション・スキルを身につけることを目標とします。

内容

1	今までの学びの振り返り（習得レベルの測定）
2	介護とは何か
3	地域とは何か
4	社会資源とは何か
5	なぜ公的介護か
6	施設で介護を受けるとは
7	自宅で介護を受けるとは
8	目に見えないものを意識する
9	帰属意識とは
10	集団力動とは
11	事例演習（ニーズの把握）
12	事例演習（アセスメント）
13	事例演習（社会資源の把握）
14	事例演習（ケアプランの作成）
15	まとめ

評価

授業態度60%、試験40%とし、総合評価60点以上を合格とします。合格点に満たない場合でも再試験は行いません。

授業外学習

【事前予習】これまで学んだことを振り返っておいて下さい。

【事後学修】概ね1回で一つのテーマを完結させる予定なので、毎回復習して修了試験に備えてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。その都度レジユメを配布します。

【推薦書】

【参考図書】授業中適宜紹介します。

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

授業の概要

コミュニケーション技術 では、 (1) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、 (2) 利用者の特性に応じたコミュニケーション (3) 介護におけるチームのコミュニケーションの基本、 について演習を展開する。

学修目標

本科目の学修目標は、 (1) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、 (2) 利用者の特性に応じたコミュニケーション (3) 介護におけるチームのコミュニケーションの基本、 グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

内容

1	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本 (1)
2	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本 (2)
3	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本 (1)
4	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本 (2)
5	利用者の特性に応じたコミュニケーション (1) 高齢者とコミュニケーション
6	利用者の特性に応じたコミュニケーション (2) 認知症とコミュニケーション
7	利用者の特性に応じたコミュニケーション (3) 認知症とコミュニケーション
8	利用者の特性に応じたコミュニケーション (1) 障害とコミュニケーション
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション (2) 障害とコミュニケーション
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション (3) 障害とコミュニケーション
11	介護におけるチームのコミュニケーションの基本 (1)
12	介護におけるチームのコミュニケーションの基本 (2)
13	実習場面における再構成 (1)
14	実習場面における再構成 (2)
15	まとめ

評価

評価 課題レポート30%、定期試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書:最新 介護福祉全書 4コミュニケーション技術

編集/松井 奈美 ISBN : 978-4-8392-3144-6

第1版/2008年 12月

他オリジナル資料配付

科目名	生活環境支援技術		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

様々な実習を経験する直前、直後の授業に受けることが望ましい授業である。実習での経験を、一過性のものにするのではなく、生活環境の支援技術について当事者として考察する。毎回、コンピュータを用いた知覚心理実験を行うため、コンピュータに対する極端な拒絶反応がないことが望ましい。

科目の概要

科目の概要 生活環境に関する支援を、日常生活における環境の中でも、音、サウンドスケープを中心に考察する。まず、生活者の視点に立つことの重要性を理解する。中でも、言語聴覚、音声言語を取り上げる。福祉学的な考察、生活学的な考察、心理学な考察、言語学的な考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

学修目標 日常生活における言語聴覚、音声言語の重要性に興味を持ち、その視点から生活環境を改善することを常に意識するようになることを目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	聴覚心理学的な考察を行う。
3	音声について、視聴覚の相互作用の面から考察を行う。
4	言語学的な考察を行う。
5	音声言語を学ぶためには、音声の物理学的な知識がどうしても必要である。その初歩を学ぶ。
6	音声言語を学ぶためには、音声の数学的な知識もどうしても必要である。その初歩を学ぶ。
7	機械による言語認識について学ぶ
8	言語の発話を学ぶ。母音と子音のパワー、スペクトルの違いなど学ぶ。
9	機械による発話について学ぶ。
10	日常生活における言語聴覚、音声言語の重要性について考察する。
11	日常生活、特に公共機関のアナウンス等の言語聴覚、音声言語の問題点を発見、改善する。
12	日常生活、特に、機器と人間の音声コミュニケーション環境の問題点を発見し、改善する。
13	言語聴覚、音声言語と手話との関係について考察する。
14	手話を学ぶための教材作成を行う。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート(15点)を、150点満点(15×10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】日常生活における道具の観察。1時間

【事後学修】自分の作成したレポートと他者のものとの比較を行う。1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】野島久雄（訳） 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	家事生活支援技術		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間生活の福祉を考えるうえで、その根底にあるのが家政学であり、人間生活はこれを基礎としている。福祉を学ぶ学生にとって家事生活支援技術は理論を見地化するうえで不可欠な科目である。授業を通して家庭生活について基本的な知識・技術を学び、日常の生活を充実させ、支援することのできる総合的な視点と思考力および実践的な態度を養う。

学修目標は次の通りである。

家事生活支援技術の基礎的技術と理論が理解できたか。

家事生活支援技術を学ぶ方法論が身についたか。

他の科目と総合し、学問的な態度をもって実践することができるか。

内容	
1	ガイダンス（科目の学び方とその視点）
2	家庭生活の基礎知識（個人と家庭生活）
3	家庭生活の基礎知識（家庭生活とその経営、生活設計）
4	高齢者の家庭生活の特徴と問題点
5	障害者の家庭生活の特徴と問題点
6	家事援助の技法（調理1）
7	家事援助の技法（調理2）
8	家事援助の技法（掃除・ごみ捨て）
9	家事援助の技法（買い物）
10	家事援助の技法（衣生活の基礎知識）
11	家事援助の技法（衣類・寝具の衛生管理）
12	家事援助の技法（裁縫1）
13	家事援助の技法（裁縫2）
14	自立に向けた家事の介護（利用者の状況に応じた介護の留意点）
15	まとめ

評価

平常点・課題40%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

2/3以上出席することで評価を受けることができ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】積極的に家事に参加し、知識・技術を身につける。また、利用者に対してどのような支援ができるのかを常に考える。

【事後学修】プリントを精読しまとめる。技術・技能の習得は、練習を繰り返し行いしっかりと身につける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書必要に応じて随時プリントを配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。

科目の概要

感覚機能の低下、運動機能の低下など、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術について学ぶ。

学修目標

1. 介護が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重した支援を実施することができる。
2. 利用者の状況に応じた適切な介護技術を選択し、安全に支援できる技術や知識を習得する。
3. 視覚障害のある人の支援、聴覚障害のある人の支援について理解する。

内容

1	ガイダンス
2	実習現場における介護技術
3	実習施設種別に応じた介護技術
4	視覚障害に応じた介護とは「視覚障害者の生活の理解」
5	視覚に障害がある人の環境整備支援と食事の支援
6	視覚に障害がある人への歩行（移動）の支援
7	聴覚・言語障害に応じた介護とは「聴覚・言語障害の理解」
8	聴覚に障害がある人のコミュニケーション
9	重複障害（盲ろう）に応じた介護とは「盲ろうの理解」
10	重複障害（盲ろう）者の介護
11	利用者の状態・状況に応じた食事の介護とは「施設の介護食」
12	嚥下困難者のための食事作り
13	運動機能障害に応じた介護とは
14	重度運動機能障害がある人の移動の介護
15	まとめ

評価

口頭発表（20%）、実技試験（60%）、授業への参加度（20%）とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】指示された課題を準備する

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにできるように練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	柘崎 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

介護を必要とする状態・状況に応じた生活支援について学ぶことを目的とし、障害に対する基礎的知識を踏まえて介護のあり方を検討できるように教授する。

科目の概要

1. 「介護実習 -1- 」に対応し、訪問介護サービスの基礎的知識を学ぶ。
2. 知的障害、重症心身障害、高次脳機能障害、運動機能障害、精神障害、認知症のある人の状態・状況に応じた生活支援技術について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

1. 訪問介護の内容や方法、利用者の状況に応じた生活支援技術について理解できる。（知識・理解）
2. 訪問介護の内容や方法、利用者の状況に応じた生活支援技術について説明できる。（思考・技能・実践）
3. 授業内容に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。（態度・志向性）
4. 提出物は締め切を厳守して提出できる。（態度・志向性）

内容

1	オリエンテーション 訪問介護サービスの基礎的知識と実際
2	訪問介護サービスの基礎的知識と実際
3	訪問介護サービスの基礎的知識と実際
4	知的障害や発達障害、重症心身障害のある人への介護
5	知的障害や発達障害、重症心身障害のある人への介護
6	精神障害のある人への介護
7	精神障害のある人への介護
8	認知症のある人への介護
9	認知症のある人への介護
10	高次脳機能障害のある人への介護
11	高次脳機能障害のある人への介護
12	高次脳機能障害のある人への介護
13	運動機能障害のある人への介護
14	運動機能障害のある人への介護
15	運動機能障害のある人への介護

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：20%

2.ワークシート：45% レポート：35%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、再課題により評価する。

授業外学習

【事前準備】 宿題を提示するので、必ず取り組むこと。授業の該当箇所の教科書を読んでくること。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』中央法規出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	杉浦 史晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

支援の対象となる人々の生活をいきいきとしたものにするために、ふれあいや豊かなコミュニケーションがいかに重要なものかを、知識のみならず、様々な演習を通して自分自身の体験として学びます。

科目の概要

介護サービスの目的は、支援の対象となる人々が生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することです。そのために介護に携わる専門職には、要介護者がやすらぎやふれあいの心地よさを感じ、生活を明るく楽しく過ごせるように支援する視点と、技能が必須となります。本科目では、社会福祉サービスにおけるレクリエーション支援の意味と価値を明らかにするとともに、介護に携わる専門職として身につけるべき、利用者の笑顔や会話、身体運動を引き出すコミュニケーション技法等について演習を織り交ぜながら学びます。

学修目標 (= 到達目標)

- 1- 笑い、笑顔の効用を理解する。
- 2- 豊かなコミュニケーションを実現するための方法を理解し、それを身につける (られるよう努力する) 。
- 3- 介護とはよりよい生活を支援するひとつの方法であることを理解し、その人の社会生活力を引き出すための介護者の働きかけについて探求する。

内容

- 1 ガイダンス ふつうのくらしのしあわせを実現する = ふくし。普通の暮らしの幸せとは？知らない人に介護されたい？人と人が深く知り合っていくために必要な過程とは何か？「何をするか」よりも「誰とするか」を突き詰めると・・・？
- 2 やる気を引き出す脳の仕組み。「楽しい」はどこにあるか？あなたがフローを感じるのはどんなとき？フロー理論を理解しよう。他者の力、関係性の力、集団の力について。
- 3 人と人が「ともにある」とはどういうことか？ 人と人との間の壁とは何か？共感の仕組み、笑いの力、不安や緊張について理解しよう。
- 4 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究 1 介護現場の余暇、レクリエーションを検証する。それは本当に必要か？
- 5 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究 2
- 6 リハビリテーションや訓練は要介護者の生活に必要なか。利用者のニーズと願い。身体運動へのアプローチ。
- 7 廃用症候群、廃用型認知症を考える。意欲ある生活を支える元気な脳の状態とは？
- 8 認知症のある人に対する支援を探る。説得しない非言語コミュニケーションについて。
- 9 介護者が身につけるべきコミュニケーション技術や人間関係能力を検討する。言語コミュニケーション、会話術について。
- 10 コミュニケーション技術、人間関係能力をさらに深める。
- 11 アセスメント、良いところ探しの技術。ICFの活用。
- 12 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究 3。
- 13 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究 4。

14 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究 5。

15 まとめ

評価

筆記・実技試験(40点)、毎時間ごとのふりかえり(30点)、授業態度(30点)を評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予習というより体調を整えて出席して下さい

【事後学修】授業で学んだ用語をインターネットなどで調べてみよう

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】笑顔を引きだす「ユーキャンの介護レクリエーション大百科」 監修・杉浦史晃 自由国民社(教室で紹介しません)

【推薦書】もっと笑顔を引きだす「ユーキャンの介護レクリエーション春夏秋冬」著・杉浦史晃 自由国民社

【参考図書】完全図解認知症ケア 介護編 著・三好春樹 講談社

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護は身体や精神に障害があっても、その人らしい生活をできる限り尊重して自立できるように最小限の援助を行うことが基本である。生活支援技術演習 ・ ・ ・ で学んだ生活援助の技術をさらに発展させ、自立を目指す応用介護技術を学ぶ。特に慢性疾患を持ちながら生活している利用者の自己管理や、医療対応の基礎知識および緊急時対応からターミナル期の介護にいたるまでの、必要な知識技術をもち、適切な援助ができることを目指している。

内容	
1	ガイダンス
2	内部障害「心臓機能障害」に応じた介護
3	内部障害「呼吸機能障害」に応じた介護
4	内部障害「腎臓機能障害」に応じた介護
5	内部障害「膀胱・直腸機能障害」に応じた介護
6	内部障害「小腸機能障害・肝機能障害・免疫機能障害」に応じた介護
7	障害体験発表
8	医療との連携に必要な「薬の基礎知識」
9	医療との連携に必要な「治療食の基礎知識」医療的ケアの基礎知識
10	医療的ケアの基礎知識
11	緊急時の対応 (身体不調時の観察と対処、応急手当、事故とその対応)
12	終末期の介護 (終末期における介護の意義・目的)
13	臨終時の介護の実際、医療との連携
14	死後のケア、グリーフケア
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況 (40%)、ペーパーテスト (60%) により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】 次回の課題を提示するので、事前に学習しておくこと
- 【事後学修】 講義内容のまとめと、自身の課題としてレポート提出 (全3回)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術 . . . 』 中央法規
- 【参考図書】 適宜紹介

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	柘崎 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は介護過程の概要を理解する科目と位置づけ、次の2つをねらいとする。

1. 介護過程の目的、介護過程の構成要素について理解し、説明できる。
2. 一人で介護過程を一通り展開できる。

科目の概要

介護過程を一人で一通り展開できるように、教授する。

学修目標（=到達目標）

1. 介護過程は介護の思考過程、実践方法及び実践過程であることを理解できる。（知識・理解）
2. 介護過程の目的、介護過程の構成要素について理解できる。（知識・理解）
3. 既に学んだ介護の知識・技術・価値を統合し、介護過程の展開ができる。（思考・技能・実践）
4. 提示した課題に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。（態度・志向性）
5. 提出物は締め切を厳守して提出できる。（態度・志向性）

内容	
1	オリエンテーション
2	介護過程の理解 <定義, 目的, 構成要素>
3	I C Fの視点から利用者を理解する
4	語り, ライフヒストリーから利用者を理解する
5	介護過程の展開(事例1)
6	介護過程の展開(事例1)
7	介護過程の展開(事例1)
8	介護過程の展開(事例1)
9	介護過程の展開(事例2)
10	介護過程の展開(事例2)
11	介護過程の展開(事例2)
12	介護過程の展開(事例2)
13	介護過程の展開(事例2)
14	介護過程の展開(事例2)
15	まとめ

評価

1.授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：20%

2.課題の提出（内容評価含む）：80%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、課題の再提出により評価する。

授業外学習

【事前準備】 宿題を提示するので、必ず取り組むこと。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『楽しく学ぶ介護過程』（改訂第2版）。久美出版，2012年。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	介護過程展開		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護過程基礎で学んだ1.介護過程の4つの構成要素(アセスメント 計画立案 実践 評価・考察)、2. ICF理論について、を基礎とし、介護過程展開 では、事例(主に高齢者と障害者)によるケアプランの作成と介護過程の展開プロセスの理解を深めることを目的とする。

科目の概要

高齢者の事例を提示し、グループワークを展開しグループ発表を行う。介護保険制度の概要についても理解を深める。

学修内容

3年次の応用介護実習における、個別のケアプランの作成の基礎技能を身に付けることを到達課題とする。

内容	
1	オリエンテーション 内 容：事例研究の進め方とグループワークの内容について理解
2	事例1. 高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1. のグループワーク演習実践
3	事例1. 高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1. のグループワーク演習実践
4	事例1. 高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1. グループワーク演習(発表準備)
5	事例1. 高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1. グループワーク発表
6	事例2. 居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習実践
7	事例2. 居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習実践
8	事例2. 居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク(発表準備)
9	事例2. 居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2. グループワーク発表
10	事例2. 認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習実践
11	事例2. 認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習実践
12	事例2. 認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習(発表準備)
13	事例2. 認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例2. グループワーク演習実践発表
14	テーマ：高齢者のケアプラン・介護過程総括 内 容：高齢者のケアプラン・介護過程総括
15	まとめ

評価

評価 1. 演習発表内容40%、2. 筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、配布オリジナル資料の学習箇所を事前に読み、わからない用語及び関連用語を確認すること

。

【事後学修】授業で行った配布オリジナル資料の学習箇所を再度読み、わからなかった用語及び関連用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリジナル資料の配付。

科目名	介護過程展開		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「介護過程」に関する科目の一つである。

科目の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスを提供できるように学ぶ。特に障害者介護における介護過程の展開を理解する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 障害者介護における介護過程の展開について理解する
2. 介護過程の展開について実習等で実践できるようになる

内容

1	介護過程の展開 (障害者) の理解
2	障害者介護における介護過程の視点 生活の自立
3	障害者介護における介護過程の視点 自律とは
4	事例 1 . 介護過程の実際 情報収集
5	事例 1 . 介護過程の実際 アセスメント
6	事例 1 . 介護過程の実際 課題の抽出
7	事例 1 . 介護過程の実際 介護計画の作成
8	事例 2 . 知的障害者支援における介護過程の視点
9	事例 2 . 知的障害者支援におけるケアプラン
10	事例 3 . 介護過程の実際 情報収集とアセスメント
11	事例 3 . 介護過程の実際 課題の抽出
12	事例 3 . 介護過程の実際 介護計画の作成
13	事例 3 . 介護過程の実際 評価と再アセスメント
14	事例研究発表と介護過程総括
15	まとめ

評価

事例発表とレポート 40 点、筆記試験 60 点とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指示された課題について準備する

【事後学修】介護過程について様々な事例を各自またはグループで学び、理解を深める

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉教育委員会「改訂版 楽しく学ぶ介護過程」久美出版

【推薦書】澤田信子等編「介護過程」ミネルヴァ書房

科目名	介護サービス計画		
担当教員名	中島 園恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、介護支援専門員の作成する介護サービス計画について学ぶ科目です。介護支援専門員の作成する介護サービス計画と各介護サービス事業者が作成する個別サービス計画の関係を理解することにより、介護過程での学びを深めていきます。

科目の概要

本科目では、介護サービス計画を作成する前に必要となるアセスメントから、介護・看護等の介護サービス事業者が作成する個別サービス計画の関係までを、介護支援サービスの構造と過程から総合的に学びます。なお、介護サービス計画は、居宅における介護サービス計画を中心とします。

学修目標（＝到達目標）

1. 介護サービス計画ならびに個別サービス計画に共通するアセスメントの視点と方法について理解することができる。
2. 介護サービス計画と個別サービス計画の関係を理解することができる。
3. 介護保険制度における介護サービス計画と個別サービス計画の現状と課題について理解することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	現象的な問題とその背景にある問題
3	介護サービス計画とは何か（1）
4	介護サービス計画とは何か（2）
5	介護保険サービスの種類と内容
6	利用者本位と介護保険制度の運用
7	生活課題とは何か
8	課題分析標準項目とICFを活用した情報整理
9	課題分析標準項目とアローチャートを活用した情報整理
10	介護サービス計画と個別サービス計画の実際
11	介護サービス計画書の作成（1）
12	介護サービス計画書の作成（2）
13	介護サービス計画書の作成（3）
14	介護サービス計画書の作成（4）
15	まとめ

評価

平常点（1割）、小レポート2回（4割）、期末レポート（5割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】現行介護保険制度下における、自宅に住む利用者への介護サービスの給付方法とサービス内容について予習してください。

【事後学修】介護サービス計画における居宅サービス計画と施設サービス計画との違いを整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。プリントを使用します。

【推薦書】生活アセスメント研究会編（2007）『福祉・介護に求められる生活アセスメント』中央法規出版株式会社。

【参考図書】大阪社協・よりよい介護をめざすケアマネジャーの会編（2010）『ここまでできる！ホームヘルプサービス “利用者の望む暮らし”を実現するために』日本機関紙出版センター。佐藤信人（2008）『ケアプラン作成の基本的考え方』中央法規出版。上田敏（2006）『ICF（国際生活機能分類）の理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか』萌文社。

科目名	認知症の理解		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士指定科目である。

認知症については正しく理解されていないことも多いため、認知症に関する基本的・標準的で正しい理解に努めたい

科目の概要

認知症に関する中核症状及び周辺症状など医学的な理解をはじめ、認知症の人を支援する際に注意すること、認知症の人を介護する家族の心理などについて学ぶ。認知症の人の考えていることや状態について理解を深めてほしい

学修目標 (= 到達目標)

認知症の種類及び病態について理解する

認知症の人の考えていることや感じ方について理解する

家族の心理及び家族支援について理解する

介護予防上の留意点について理解する

倫理的な問題、関連する社会制度及び課題について理解する

内容

1	オリエンテーション	なぜ認知症について理解する必要があるのか。
2	認知症の人の体験の理解	「恍惚の人」から学ぶ
3	認知症の人の体験の理解	「恍惚の人」から学ぶ
4	認知症の人の体験の理解	「毎日がアルツハイマー」から学ぶ
5	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの歴史
6	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念と視点
7	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症とは何か
8	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症とは何か
9	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症とは何か
10	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の治療・予防
11	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の人の行動と心理
12	認知症の人の生活理解	認知機能の変化が生活に及ぼす影響
13	認知症の人の生活理解	環境の力
14	認知症の人の生活理解	若年性認知症の人の理解
15	まとめ	

評価

学習状況・レポート提出状況(40%) (ペーパーテスト60%) を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の指定された箇所を熟読する

【事後学修】授業で学んだ箇所を読み直す。資料等を熟読する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集『認知症の理解 第2版』中央法規出版

【推薦書】授業の中で紹介する

【参考図書】

科目名	認知症の理解		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士指定科目

認知症の理解 で得た知識をもとに介護に必要な視点と手法を学ぶ

科目の概要

当事者の思いや願いを汲み取る

家族環境、生活環境、施設環境、病型、進行レベルによる介護の展開

施設、地域、家庭など介護が展開される場の理解

認知症を患う家族の状況とその支援

地域包括支援センター等地域社会資源の理解とその連携

* 当事者またはグループホーム等に従事する介護福祉士による講義により、実践的課題を探る

学修目標

当事者の思いや願いを汲み取ることができる

認知症利用者へのステージ別介護の基本が理解できる

家族や地域社会への支援の必要性、実際に理解できる

内容

1	オリエンテーション 認知症の人のくらしを理解する（1）映像に見る認知症の人の思いや願い
2	認知症の人のくらしを理解する（2）映像に見る認知症の人の思いや願い
3	認知症の人のくらしを理解する（3）映像から考える認知症の人のかわりの基本
4	認知症の人の介護過程～本人や家族の思いや願いから始める介護
5	認知症の初期・中期にある人の介護
6	認知症の後期・終末期にある人の介護
7	地域の連携と協働の実際
8	中間のまとめ
9	家族の力を活かす（1）家族の体験と現状に学ぶ～家族支援のありかた
10	家族の力を活かす（2）家族会の実践に学ぶ
11	認知症の人の支援に生かす技法（1）回想法 理念と実際
12	認知症の人の支援に生かす技法（2）バリデーションケア 理念と実際
13	課題の発表（1）
14	課題の発表（2）
15	課題の発表・提出（3）まとめ

評価

授業目標に沿った課題の提出 20%、授業参加態度 30%、試験 50%

合計60%に達しない場合は再試験を実施

授業外学習

【事前予習】 テキスト当該章を読み、参考文献にも目を通す

【事後学修】 参考文献を 1 冊以上読み感想・考察をレポートする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 「認知症の理解」中央法規出版

推薦書：小沢勲 「認知症とは何か」岩波新書

野村豊子「回想法とライフレビュー」中央法規

科目名	障がいの理解		
担当教員名	市川 和男		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

< 科目の性格・科目の概要 >

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

< 学修目標 (= 到達目標) >

障害のある人の心理や身体、社会的機能に関する基礎的知識を理解する。

内容

1	障害の基礎的理解 障害の概念, 障害の捉え方
2	障害者福祉の基本理念, ノーマライゼーション、国際障害者年の理念他
3	障害の医学的側面の基礎的知識
4	身体障害, 視覚障害の種類と原因と特性
5	身体障害, 聴覚障害、言語機能障害種類と原因と特性
6	身体障害, 肢体不自由の種類と原因と特性
7	身体障害, 肢体不自由の種類と原因と特性
8	身体障害, 内部障害の種類と原因と特性
9	身体障害, 内部障害の種類と原因と特性
10	精神障害のある人の理解
11	知的障害の種類と原因と特性
12	発達障害の種類と原因と特性
13	難病の種類と原因と特性
14	難病の種類と原因と特性
15	まとめ

評価

試験50点 小テスト・レポート30点 平常点20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次の授業の内容についてテキストを熟読しておくこと。

【事後学修】小テストを実施した際は復習を行うこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

こころとからだのしくみ/障害の理解/第2版/メジカルフレンド社

科目名	障がいの理解		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

1科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける科目であり国家資格取得に必要な科目である。

科目の概要

講義を中心とし、障害を持つ人の特性、生活上の諸問題及び介護上の注意点などについて理解を深める。

学修目標

- ・ 障害を持つ人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。
- ・ 障害を持つ人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。
- ・ 障害を持つ人の立場から、介護の視点を考えることができる。

内容

1	障害の基礎的理解、障害の概念、障害の捉え方
2	障害者の人権、障害者福祉の理念、ノーマライゼーション、国際障害者年の理念, 他
3	障害を持つ人の心理、障害が及ぼす心理的影響
4	障害の受容・適応と適応規制、その他
5	視覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響および家族への支援
6	聴覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響および家族への支援
7	言語機能障害に伴う機能の変化と日常生活への影響および家族への支援
8	肢体不自由に伴う機能の変化と日常生活への影響および家族への支援
9	内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響および家族への支援
10	精神障害に伴う機能の変化と日常生活への影響および家族への支援
11	知的障害を伴う機能の変化と日常生活への影響および家族への支援
12	発達障害に伴う機能の変化と日常生活への影響および家族への支援
13	難病に伴う機能の変化と日常生活への影響および家族への支援
14	連携と協働、地域におけるサポート体制および家族への支援
15	まとめ

評価

試験60点 レポート20点 平常点20点 とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：谷口敏代編集「最新介護福祉全書11障害の理解」メヂカルフレンド社

推薦書・参考書等は随時紹介する。

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

介護福祉士指定科目である。

こころとからだの両面から利用者の状態を見て、適切な介護方法を導き出す為の根拠となる基礎的知識を習得する

科目の概要

人体の構造と身体各部の名称・役割を理解した上で、具体的な介護場面（身じたく・移動・食事・排泄・入浴・睡眠等）に関連したこころとからだのしくみについて学んでいく。

学修目標（＝到達目標）

介護を必要とする人の生活機能に関連したこころとからだのしくみを理解し、介護実践に適切に活用できる知識を習得する。

内容	
1	オリエンテーション こころとからだのしくみを理解する必要性をしる
2	こころとからだのつながり及び、健康について理解する こころのしくみを理解する
3	からだのしくみを理解する。 循環器系 呼吸器系
4	からだのしくみを理解する。 消化器
5	からだのしくみを理解する。 感覚器 泌尿器
6	からだのしくみを理解する 内分泌器
7	からだのしくみを理解する 脳神経系
8	からだのしくみを理解する ボディメカニクス
9	「身じたく」に関連したしくみ 基礎知識
10	「身じたく」に関連したしくみ 心身の機能低下が身支度に及ぼす影響
11	「身じたく」に関連したしくみ 変化の気づきと対応
12	「移動」に関連したしくみ 基礎知識
13	「移動」に関連したしくみ 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
14	「移動」に関連したしくみ 変化の気づきと対応
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況（40%） ペーパーテスト（60%）で総合的に評価し、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書で指定された箇所を熟読する

【事後学修】授業で学んだ箇所を読み返す。資料等を熟読する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集 『こころとからだのしくみ 第3版』中央法規出版

【推薦書】授業の中で紹介する

【参考図書】

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

こころとからだの両面から利用者の状態を見て、適切な介護方法を導き出す為の根拠となる基礎的知識を習得する

科目の概要

人体の構造と身体各部の名称・役割を理解した上で、具体的な介護場面に関連したこころとからだのしくみについて学んでいく。

学修目標(=到達目標)

介護を必要とする人の生活機能に関連したこころとからだのしくみを理解し、介護実践に適切に活用できる知識を習得する

最後に終末期におけるこころとからだについて学び、介護を実践することの意味・意義を考える。

内容

1	「食事」に関連したしくみ	基礎的知識
2	「食事」に関連したしくみ	心身の機能低下が及ぼす影響
3	「食事」に関連したしくみ	変化と気づきの対応
4	「入浴・清潔保持」に関連したしくみ	基礎的知識
5	「入浴・清潔保持」に関連したしくみ	心身の機能低下が及ぼす影響
6	「入浴・清潔保持」に関連したしくみ	変化と気づきの対応
7	「排泄」に関連したしくみ	基礎的知識
8	「排泄」に関連したしくみ	心身の機能低下が及ぼす影響
9	「排泄」に関連したしくみ	変化と気づきの対応
10	「睡眠」に関連したしくみ	基礎知識 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
11	「睡眠」に関連したしくみ	変化の気づきと対応
12	「死にゆく人」に関連したしくみ	基礎的知識
13	「死にゆく人」に関連したしくみ	介護の現場から～ゲスト講師～
14	「死にゆく人」に関連したしくみ	心身の機能低下が及ぼす影響
15	まとめ	

評価

学習状況・レポート提出状況(40%) ペーパーテスト(60%を総合的に評価し、60点以上を合格とする)

授業外学習

【事前予習】教科書の指定された箇所を熟読する

【事後学修】授業で学んだ箇所を読み返す。資料を熟読する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集 『こころとからだのしくみ 第3版』 中央法規出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	柘崎 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

医療職と連携して医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。

科目の概要

医療的ケアの意義・目的を理解した上で、医療的ケアの基礎的知識を学ぶ内容とする。

学修目標(=到達目標)

1. 医療的ケアの意義・目的を理解した上で、喀痰吸引等の安全な実施、保健医療制度とチーム医療、健康状態の把握、清潔保持と感染予防について理解できる。(知識・理解)
2. 上記1.で修得した内容について説明できる。(思考・技能・実践)
3. 自己学習及びグループ学習を通し、提示した課題に対する解決を行うことができる。(思考・技能・実践)
4. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。(態度・志向性)

内容

1	医療的ケアを学ぶために 「医療的ケア」を学ぶ目的
2	医療的ケアを学ぶために 「医療的ケア」「喀痰吸引等」の用語
3	医療的ケアを学ぶために 医療的ケアニーズの増加
4	医療的ケアを学ぶために 歴史的変遷 介護福祉士の定義に追加された「喀痰吸引等」
5	安全な実施 医行為 教育・研修 安全のための実施条件 記録と報告・連携
6	保健医療制度とチーム医療
7	保健医療制度とチーム医療
8	介護における生活支援と介護の倫理
9	健康状態の把握
10	健康状態の把握
11	健康状態の把握
12	健康状態の把握
13	清潔保持と感染予防 感染予防
14	清潔保持と感染予防 消毒と滅菌
15	まとめ

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：10%

2. 筆記試験：90%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んてくること。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『医療的ケア』建帛社，2015年。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	柘崎 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

医療職と連携して医療的ケアを安全・適切に実施できるよう，必要な知識・技術を修得する．

科目の概要

喀痰吸引の基礎知識及び実施手順，経管栄養の基礎知識及び実施手順，医療的ケアにおけるリスクマネジメントを学ぶ内容とする．

学修目標 (= 到達目標)

1. 喀痰吸引及び経管栄養の基礎知識，及び実施手順について理解できる． (知識・理解)
2. 喀痰吸引及び経管栄養の基礎知識，及び実施手順について説明できる． (思考・技能・実践)
3. 自己学習及びグループ学習を通し，提示した課題に対する解決を行うことができる． (思考・技能・実践)
4. 毎回の授業に対し，自ら取り組み，考える態度を持つ． (態度・志向性)

内容

1	「医療を必要とする人への介護」 (筆記試験) の復習 / 清潔保持と感染予防 (2) 演習
2	喀痰吸引概論
3	喀痰吸引概論
4	喀痰吸引概論
5	喀痰吸引概論
6	喀痰吸引概論
7	喀痰吸引概論 (筆記試験を含む)
8	経管栄養概論
9	経管栄養概論
10	経管栄養概論
11	経管栄養概論 (筆記試験を含む)
12	子どもの吸引
13	喀痰吸引に伴うケア
14	? リスクマネジメント
15	? リスクマネジメント

評価

1.授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：10%

2.筆記試験：70%

3.提出物：20%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、課題レポートを課す。

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『医療的ケア』建帛社，2015年。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	柊崎 京子、山口 由美、平山 純子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、「医療を必要とする人への介護 ・ 」を単位取得した者のみが履修できる。

1. 医療職と連携して医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。
2. 救急蘇生の演習を行う。
3. 喀痰吸引等の演習評価を行う。

科目の概要

喀痰吸引・経管栄養の実施手順を理解した上で、喀痰吸引等の演習評価を行う内容とする。

学習目標

1. 喀痰吸引・経管栄養の確認試験に合格できる。（知識・理解）
2. 喀痰吸引（口腔内，鼻腔内）の演習評価に合格できる。（知識・理解）（思考・技能・実践）
3. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。（態度・志向性）

内容

1	? 緊急時の対応
2	? 緊急時の対応
3	喀痰吸引概論・経管栄養概論の確認試験（60点以上を合格とする）
4	喀痰吸引・経管栄養の実施手順の確認（演習評価の準備）
5	演習 救急蘇生
6	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
7	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
8	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
9	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
10	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
11	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）
12	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）
13	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）
14	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）
15	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：30%

2. 筆記試験：20%

3. 演習評価の状況：50%

演習評価に合格できることを合格とする。かつ、1.2.3について、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。指定のDVDを視聴し、授業準備を行うこと。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自己の課題を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 『医療的ケア』メヂカルフレンド社，2014年。

推薦書 『医療的ケア』建帛社，2015年。

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	柘崎 京子、山口 由美、平山 純子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、「医療を必要とする人への介護 ・ 」を単位取得した者のみが履修できる。
喀痰吸引等の演習評価を行う。

科目の概要

喀痰吸引・経管栄養の実施手順を理解した上で、喀痰吸引等の演習評価を行う内容とする。

学習目標

1. 喀痰吸引（気管カニューレ内部）、経管栄養（経鼻経管栄養、胃ろう）の演習評価に合格できる。（知識・理解）（思考・技能・実践）
2. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。（態度・志向性）

内容

1	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
2	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
3	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
4	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
5	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
6	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
7	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
8	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
9	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
10	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
11	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
12	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
13	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
14	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
15	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：50%
2. 演習評価の状況：50%

演習評価に合格できることを合格とする。 かつ、1.2.について、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。指定のDVDを視聴し、授業準備を行うこと。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自己の課題を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書： 『医療的ケア』メヂカルフレンド社，2014年。

推薦書： 『医療的ケア』建帛社，2015年。

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	宮城 道子、大山 博幸、佐藤 陽、片居木 英人 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事前学習の成果として実習課題を作成することができる。

内容	
1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	相談援助にかかわる知識と技術に関する理解
3	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解1
4	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解2
5	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解3
6	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解4
7	実習課題 (目標) と実習計画作成の方法 1
8	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 1
9	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 2
10	「実習記録ノート」への具体的記述方法と管理の仕方
11	個人情報保護と守秘義務の理解
12	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 1
13	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 2
14	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 3
15	まとめ、実習に向けての確認

評価

事前学習の成果である事前報告書 (40%) や実習後の事後報告書の提出及び実習報告会での報告 (60%) を求める。それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助過程について確認すること。自分の関心のある福祉領域の主な施設や機関について確認すること。

【事後学修】作成した実習課題 (目標) や実習計画について再度見直すこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、宮城 道子、佐藤 陽、片居木 英人 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事前学習の成果として実習課題を作成することができる。事後学習の成果として実習報告書を作成することができ、報告会で報告することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 1
3	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 2
4	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 3
5	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 1
6	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 2
7	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 3
8	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 4
9	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 5
10	実習報告会の実施
11	2 回目の実習に関するオリエンテーション
12	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 1
13	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 2
14	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 3
15	まとめ、実習に向けての確認

評価

事前学習の成果である事前報告書 (40%) や実習後の事後報告書の提出及び実習報告会での報告 (60%) を求める。それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。」

授業外学習

【事前予習】実習中作成した実習記録を再度読み直しておくこと。

【事後学修】作成した2回目実習の実習課題（目標）や実習計画書を見直しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編 『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著 『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、宮城 道子、佐藤 陽、片居木 英人 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事後学習の成果として実習報告書を作成することができ、報告会で報告することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 1
3	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 2
4	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 3
5	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 1
6	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 2
7	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 3
8	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 4
9	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 5
10	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 1
11	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 2
12	実習報告会の実施
13	実習全体の振り返り 1
14	実習全体の振り返り 2
15	まとめ

評価

実習後の事後報告書の提出 (60%) と実習報告会での報告 (40%) を求める。それらを総合的に評価し60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】実習中作成した実習記録やケーススタディワークシートを見直しておくこと。

【事後学修】実習報告会の報告書やケーススタディワークシートをはじめこれまでの実習での学習を総括しそれが、今後の

自分の進路においてどのような意義を持つのかを明らかにすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	社会福祉実習		
担当教員名	大山 博幸、佐藤 陽、片居木 英人、福田 智雄 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。指定された実習施設で各自180時間以上の実習を実施する。相談援助実習指導の科目と関連して学習していく。

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

実習先での利用者や職員との円滑な人間関係を形成できる。実習中対象となった利用者への支援計画を作成することができる。実習先でのチームアプローチの実際についてとらえその概要を説明することができる。社会福祉士として要請される職業倫理について具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先の経営管理の実際状況について理解し、具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先とその地域の諸社会資源との関連について理解し、説明することができる。

内容

- 1利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- 3利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護および支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- 6社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- 8当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。

評価

実習指導者による実習評価や巡回時の学生の様子、実習指導者からのコメントを元に総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】本実習の事前指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。
- 【事後学修】本実習の事後指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編 『相談援助実習・相談援助実習指導』 弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著 『相談援助実習』 ミネルヴァ書房

科目名	介護総合演習		
担当教員名	山口 由美、野島 靖子、宮内 寿彦、柘崎 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉士コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また、介護総合演習 及び介護実習 を単位取得した者、並びに介護実習 を履修中の者のみが履修できる。

科目の概要

介護実習 1 の事前及び事後指導、介護実習 - 1 - の事前及び事後指導を行う

学修目標（=到達目標）

- 1 実習施設の概要を理解できる。
- 2 実習計画を作成し、学習課題を明確にできる
- 3 介護過程におけるアセスメントを理解し、実践できる

内容	
1	介護実習 の目的・位置づけ
2	訪問介護実習の概要
3	在宅実習の諸注意
4	介護技術の確認
5	介護実習 - 1- オリエンテーション
6	介護過程の展開
7	個人票・実習計画作成
8	3年生介護実習報告会参加
9	介護実習 - 1- オリエンテーション
10	個人票・実習計画作成
11	介護実習 - 1- 事前報告会
12	介護実習 - 1- 報告会準備及び介護実習 - 1- の実習計画書・個人票の作成
13	介護実習 - 1- 報告会
14	介護実習 - 1- 事前報告会
15	介護実習 - 1- 事後指導

評価

授業への姿勢、個人票・実習計画書の作成、レポートにより評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に指示する。

【事後学修】授業時に指示する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「実習の手引」（十文字が苦戦女子大学作成）を使用する。

科目名	介護総合演習		
担当教員名	柘崎 京子、野島 靖子、宮内 寿彦、山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1. 本科目は学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また、介護総合演習・、介護実習 及び介護実習 -1を単位取得した者のみが履修できる。
2. 介護実習 -1の事後学習、介護実習 -2の事前学習及び事後学習を行う。
3. 授業形態は、講義、教員別の個別指導、グループ別学習等を組み合わせて行う。

科目の概要

1. 介護実習 -1- の事後学習を行う。
2. 介護実習 -2の事前学習、実習中の指導、事後学習を行う。

学修目標 (= 到達目標)

1. 「介護実習 -1- 」の振り返りを行い、振り返り内容を発表・共有し、意見交換することができる。
2. 「介護実習 -2」の事前学習として、実習の概要を理解し、個人調書・実習計画書の作成ができる。また、実習を行うための準備ができる。
3. 「介護実習 -2」の振り返りを行い、振り返り内容を発表・共有し、意見交換することができる。

内容

1	オリエンテーション/介護総合演習 の概要の理解 / 「介護実習 -1- 」の振り返り方法の理解
2	介護実習 -1- : 事後学習
3	介護実習 -1- : 事後学習
4	介護実習 -1- : 事後学習
5	介護実習 -2の概要理解 / 個人調書・実習計画書の作成準備 / 実習配属先の発表
6	卒業生のお話を聞く / 個人調書・実習計画書の作成
7	介護過程展開の復習 / 個人調書・実習計画書の作成
8	ケーススタディの事前学習
9	ケーススタディの事前学習 / 個人調書・実習計画書の完成
10	実習計画書の発表
11	介護実習 -2実習のすすめ方の確認 / 実習の諸注意の確認
12	介護実習 -2 : 帰校日指導
13	介護実習 -2 : 帰校日指導
14	介護実習 -2 : 事後学習
15	介護実習 -2 : 事後学習

評価

授業への参加状況，個人調書・実習計画書の作成，実習に向かう準備状況，実習の振り返り状況により評価し，総合評価60点以上を合格とする．不合格の場合は個別の課題を提示する．

授業外学習

- 【事前予習】 「介護実習の手引き」を読む．事前に指示された課題に取り組む．
- 【事後学修】 毎回の授業時に提示する．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）
- 【推薦書】
- 【参考図書】

科目名	介護総合演習		
担当教員名	宮内 寿彦、野島 靖子、柘崎 京子、山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士コース必須専門科目。介護総合演習 の履修・単位認定が前提となる。

科目の概要

介護実習 - 2 の実習事後指導を行う。

概要は内容を参照。

学修目標

介護実習報告会で、個別のケーススタディを報告。

内容

内容

1．介護実習 - 2 の実習事後指導（4回）

- ・実習記録物の確認
- ・担当教員とのスーパービジョン

2．ケーススタディの作成（5回）

- ・介護実習 - 2 で実施した、個別介護支援計画をもとに

ケーススタディを作成

3．介護実習報告会の実施（6回）

- ・報告会準備
- ・報告会資料の作成と印刷

評価

評価 ケーススタディの作成、実習報告会の取り組みとし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指定された学習課題を事前に取り組み、わからない用語、機関名、関連法を確認すること。

【事後学修】授業で行った学習箇所について、担当教員とわからなかった用語、機関名、関連法を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学内作成「実習の手引」・オリジナル資料配付

科目名	介護実習 -1		
担当教員名	山口 由美、野島 靖子、宮内 寿彦、柘崎 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1. 本科目は学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉士コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また、介護総合演習 及び介護実習 を単位取得した者、並びに介護総合演習 を履修中の者のみが履修できる。

2. 介護実習 - 1 - は、厚生労働省告示により定められた「実習施設・事業等()」に該当する実習であり、介護実習 - 1 - は、厚生労働省告示により定められた「実習施設・事業等()」に該当する実習である。

科目の概要

介護実習 1 居宅で暮らす利用者の生活状況および訪問介護の実際を知る。利用者及び家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践。

介護実習 - 1 - 施設に入所している利用者の介護過程における生活課題抽出までを行う。

学習目標

- 1 コミュニケーション能力の向上につとめ、利用者及び職員と人間関係を築くことができる。
- 2 様々な介護現場における多職種協働について理解する。
- 3 利用者の個別の状況に応じた日常生活支援技術を実施できる。
- 4 一人の受け持ち利用者に関するアセスメントをし、生活課題の抽出ができる。

内容

1 介護実習 - 1 -

訪問介護事業所等での学外実習である。

12月に訪問介護事業所等で、3日間(24時間)の介護実習を行う。

2 介護実習 - 1 -

入所施設での学外実習である。

2~3月に介護老人福祉施設、介護老人保健施設等の入所施設で、20日間(160時間)の介護実習を行う。

3 本学習目標、実習計画書、実習先の状況を踏まえ、各自で毎日の実習目標を設定し、介護実習を行う。

4 介護実習 - 1 - の実習についてはおおよそ下記のスケジュールを目安とする。ただし、実習施設の実習指導者や実習巡回担当教員に相談しながら進める。

・1週目の後半にアセスメント対象者を決定する(利用者が決定している場合は、利用者に関わりながら情報収集を行う)。

・2週目は、利用者に関わりながら情報収集を行う。

・3週目は、情報の分析・解釈・統合、判断を行い、3週目の終わりには大まかでもよいので、生活課題を抽出できる

・4週目は、介護計画の実施及び評価を行う 反省会を学生主体で行う 。

5 実習時間、並びに実習記録の提出時間や提出場所を厳守する。

評価

実習中の学習姿勢、実習記録の内容、本学習目標の到達度，個人の実習計画の到達度等について，実習施設の評価及び担当教員の評価を踏まえて評価し，総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】学生各自が作成した個人目標・実習計画に沿った学習を行う

【事後学修】実習反省会、実習記録等により、実習をふりかえり、次回の実習課題を考察する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学内作成の「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）を使用する。

科目名	介護実習 -2		
担当教員名	柘崎 京子、野島 靖子、宮内 寿彦、山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1. 本科目は学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また、介護総合演習 ・ 及び介護実習 ・ 介護実習 -1を単位取得した者、並びに介護総合演習を履修中の者のみが履修できる。
2. 厚生労働省告示により定められた「実習施設・事業等()」に該当する実習である。

科目の概要

1. 利用者の介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程を実践する。
2. 入所施設で23日間の介護実習を行う。
3. 原則として、夜勤実習等の変則勤務を経験する。

学修目標(= 到達目標)

1. 利用者個別の状況に応じたコミュニケーションや生活支援技術の方法を学ぶ。
2. 利用者一人の介護過程の展開を通して、介護過程の展開方法を学ぶ。
3. 社会福祉施設・機関の役割及びチームケアのあり方、介護福祉士の職務内容・役割を理解する。

内容

1. 8月～9月に、介護老人福祉施設や介護老人保健施設等で、23日間(184時間)の介護実習を行う。
2. 本学習目標、個人の実習計画書、実習先のプログラム等を踏まえ、各自で毎日の実習目標を設定して介護実習を行う。その際、実習施設の実習指導者による指導や、実習担当教員による巡回指導を受けながら実習を行う。
3. 介護過程の展開については、下記を目安とする。
ただし、実習施設の実習指導者や実習巡回担当教員に相談しながら進める。
 - ・ 1週目の後半には、介護過程を展開する利用者を決定する。既に利用者が決定している場合は、利用者とかかわりながらアセスメント(情報収集、分析)を行う。
 - ・ 2週目は、利用者とかかわりながらアセスメント(情報収集、分析)を行う。
 - ・ 3週～4週目は、アセスメント、介護計画立案、実施を行う。
 - ・ 4～5週目は、介護計画の実施、評価を行う。
4. 実習時間、並びに実習記録の提出時間や提出場所を厳守する。

評価

実習中の学習姿勢，実習記録，本学習目標の到達度，個人の実習計画の到達度等について，実習施設の評価及び担当教員の評価を踏まえて評価し，総合評価60点以上を合格とする．

授業外学習

- 【事前予習】 学生が作成した実習計画書に沿った事前学習，介護過程の復習を行う．
- 【事後学修】 実習反省会，実習記録等により実習を振り返り，実習のまとめを行う．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）
- 【推薦書】
- 【参考図書】

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	児童・家庭福祉特論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 子ども・家庭福祉に関わる一般的な知識の上に「子どもの権利擁護」「社会的養護」という課題について深く理解するものである。

科目の概要 子ども虐待、DV、及び地域子育て支援の実際を理解する。児童養護施設、及び里親制度等社会的養護の現状、子ども虐待の現状を理解する。

学修目標 複雑多岐にわたる子ども・家庭に関わる課題について、複数の視点で理解できるようにできること。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、地域子育て支援等）
2	児童・家庭の福祉に係る課題
3	非行のとらえ方
4	非行に係る機関
5	心身障害のとらえ方
6	心身障害児に係る機関
7	情緒障害の定義と施設
8	情緒障害と発達障害
9	虐待の現状
10	虐待のとらえ方（地域における予防等）
11	社会的養護の現状（施設等）
12	社会的養護の現状（里親、養子縁組等）
13	子ども虐待の現状と課題（児童相談所と法的課題）
14	子ども虐待の現状と課題（家族再統合などの支援）
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】計画に沿って個々の内容について、参考図書を活用して大まかな把握をする。

【事後学修】講義、資料をもとに重要な概念を振り返る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業において資料提供する。

参考図書 社会福祉六法

科目名	公的扶助特論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

公的扶助特論は公的扶助論と連関する科目である。低所得者対策と生活保護制度の概要と運用の実際や問題点について理解する。

科目の概要

改正生活保護法、生活保護法、生活困窮者自立支援法それぞれの概要と連関、実際、運用の問題点等を理解する。

学修目標（＝到達目標）

低所得者に対する支援と生活保護法制度の概要やその実際の在り方について理解することを目標とする。

内容	
1	福祉政策の論点 - 普遍主義と選別主義
2	福祉政策の論点 - 自立と依存
3	社会保障制度体系のなかの公的扶助の位置づけ
4	改正生活保護法成立の時代的背景と概要、その問題点
5	生活困窮者自立支援法と時代的背景と概要、その問題点
6	生活保護法の基本原理
7	生活保護法の基本原則
8	生活保護の扶助の種類
9	生活保護の扶助のかたち - 金銭給付と現物給付、及び保護施設
10	生活保護の実施機関とその決定過程
11	被保護者の権利と義務 - 権利を中心に
12	被保護者の権利と義務 - 義務を中心に、生活保護不正受給問題を含めて
13	自立支援プログラムとは何か - 自立助長への方法
14	自立促進支援プログラムによる支援活動 - 自立促進支援の方法
15	まとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読

【事後学修】授業終了時時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】公的扶助論の教科書を原則使用する。

【推薦書】授業時、適宜紹介する。

【参考図書】授業時、適宜紹介する。

科目名	人間福祉特論 A (基礎)		
担当教員名	柘崎 京子、富井 友子、久保田 葉子、亀崎 美沙子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科教員によるオムニバス講義。現代の福祉について視野を広げ、多様性と総合性の理解を深めることにより、福祉の学びのまとめとなる有益な選択科目である。

科目の概要

社会福祉の体系的理解のための講義を行う。社会福祉関連学会や研究の動向、トピックスについて講義する。

学修目標 (= 到達目標)

福祉専門職に求められる資質を理解し、今後の成長の糧とする。

内容	
1	(柘崎) オリエンテーション / 高次脳機能障害のある人の理解とかかわり
2	(角田) ユニバーサルデザインの概要
3	(角田) ユニバーサルデザインの歴史
4	(角田) 地域のユニバーサルデザインの考察
5	(亀崎) 就学前児童の子育て支援
6	(亀崎) 就学前児童の子育て支援
7	(亀崎) 就学前児童の子育て支援
8	(久保田) 音楽の力 学校や福祉施設に生の演奏を届ける活動とその意味
9	(久保田) 音楽の力 達人に学ぶ 実践例の検証
10	(久保田) 音楽の力 誰もが表現者・実践編
11	(片山) 災害と福祉
12	(片山) 災害と福祉
13	(片山) 災害と福祉
14	(柘崎) 高次脳機能障害のある人の理解とかかわり
15	(柘崎) 高次脳機能障害のある人の理解とかかわり

評価

授業への参加状況：20%，課題レポート：80%。

各教員の講義から関心を持ったテーマを選び、課題レポートを提出する。テーマの担当教員が採点し、評価する。

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、再課題により評価する。

授業外学習

【事前予習】紹介された推薦書・参考書を読むこと。

【事後学修】講義ごとに示される発展的課題を選択して取り組むこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】科目全体に共通する教科書はない。テーマに応じて適宜資料を配布する。

【推薦書】テーマにより適宜紹介する。

【参考図書】テーマにより適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：精神保健分野での、当事者の暮らしや支援の理解に欠かせない社会福祉の学修として位置付ける。人間が社会的な存在である以上、こどもから高齢者に至るすべてのライフステージで心身の健康が損なわれる可能性がある。社会的な制度の立ち遅れや社会的偏見の歴史から、その原因を探り、支援に係る専門職の役割を学ぶ。中でも第二次世界大戦後、歴史的に形成されてきた当事者こそが「その人」の専門家であるというストレングスモデルの視点を軸に据える。

科目の概要：精神保健福祉の意義、精神障がいの基礎知識、精神保健福祉の歴史的社会的背景、精神保健福祉制度の概要について理解する。ついで、生活の場及びライフサイクルにおける精神保健福祉のストレングスモデルを活かした実践的役割や多様な支援手法を学ぶ。地域生活支援センターゲスト講師による地域での固有の実践を共有、当事者講師によるその想いや願いに傾聴する場を設ける。関心ある領域に関する最終レポートを作成・発表し全体で共有する

- 学修の目標： 1 精神保健福祉の意義・制度及び歴史的形成過程が理解できる
 2 精神障害がい者の疾病とその回復過程が理解できる
 3 リカバリー自身の住む自治体の精神保健福祉政策を理解・評価することができる
 4 日本の精神保健福祉政策を理解・評価・批判することができる

内容

1	オリエンテーション 映像から考える精神障がい者の人権（1）ホスピタリズムを考える
2	映像から考える精神障がい者の人権（2）パターナリズムと私たち
3	映像から考える精神障がい者の人権（3）脱施設化と精神保健福祉の展開
4	精神疾患と精神保健福祉（1）統合失調症 診断と治療、回復過程
5	精神疾患と精神保健福祉（2）気分障害と自殺予防 地域連携
6	精神保健福祉の発達史
7	地域生活支援の実際（1）リカバリー回復モデルと退院促進
8	中間まとめ
9	地域生活支援の実際（2）ACT 重い障がい者を地域で支える
10	地域生活支援の実際（3）当事者と専門職からのメッセージ（新座地域生活支援センター）
11	地域生活支援の実際（4）当事者組織からのメッセージ（AA関東セントラルオフィス）
12	課題発表と提出について
13	発表（1）
14	発表（2）
15	発表（3）課題提出 振り返り

評価

授業参加態度 30%、中間評価 20% 最終回評価 50% 60%以上合格 合格点に満たない場合には再試験を行います

授業外学習

「事前予習」 当該章を読み自己課題を作成する

「事後課題」 授業を受け、振り返りシート、または設定された課題をもとにレポートを作成する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野末浩之「こころ・からだ・暮らし」精神障害者の理解と地域支援 萌文社

【推薦書】大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア、捨てない日本」岩波書店

藤本豊編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房

野中猛「精神障害リハビリテーション」中央法規

DVD「カッコー好の巣の上で」

参考図書は随時授業で紹介します

科目名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を中心にボランティア・コーディネーションの基本をとらえる。

科目の概要

ボランティアに関する知識と推進するための技術としてコーディネーション力を、具体的実践事例を交えながら理解することを内容とする。

学修目標 (=到達目標)

1. ボランティアについて理解する。
2. ボランティアコーディネーターの基本的な姿勢を身につける。
3. ボランティアコーディネーションについて理解する。

内容

1	はじめに ボランティア-自らの学びの経験をもとに-
2	豊かに生きていく上で必要なボランティア
3	ボランティアとは何か
4	ボランティアの理解1
5	ボランティア活動の実際
6	ボランティアの理解2
7	ボランティア活動の意味
8	ボランティアのとらえ方1
9	ボランティアのとらえ方2
10	ボランティア活動の課題
11	コーディネーションについて
12	ボランティアコーディネーションの理解
13	ボランティアコーディネーションとボランティアコーディネーター
14	ボランティアセンターとボランティアコーディネーター
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー20%、学修目標に関する中間レポート30%、総括レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ボランティアについて自分の認識を整理出来るように、書籍、テレビ、新聞、雑誌、実際のボランティア活動等の中から選んで事前理解を心がける。

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、示された図書等を読み、関心を持った活動等について更に調べ、学びを発展的に深める努力を心がける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントして授業時に持参すること。

その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】日本ボランティアコーディネーター協会編「市民社会の創造とボランティアコーディネーション」筒井書房、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論」(株)みらい

科目名	国際福祉論		
担当教員名	岡田 徹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会福祉はこれまで1国家・1国民社会を前提にして生成展開されてきた。ここでは、この前提をいったん取り外し、「地球の見地に立った人間福祉」を考える。

科目の概要

地球世紀 (Global century) と呼ばれる21世紀を生きる私たちにとって重要なキーワードはこの科目にある「福祉」と「国際化」である。ここでは社会福祉の中で最も創発的な領域である国際福祉の理論と実践を取り上げる。ここでは先進国型の「福祉」と途上国型の「開発」を包摂する概念として「人間福祉」を提起する。人間福祉とは、<いのちと存在>の基底にとどく福祉のことであり、これには「《美》と《魂》」および「《悲》と《愛》」の力添えが要る。

学習目標

- 1) 事前にレジュメを配布するので、予習を欠かさないこと。
- 2) 事後に授業内容を振り返って理解すること。
- 3) 上記の2点を通して、自分の関心や専門研究に関連させて意見表明ができるように努めること。

内容

授業の進め方：毎回、講義レジュメを事前に配布する。映像教材を用いる。毎授業時に小レポートを課す。

進行計画

1. なぜ今「国際福祉」か (意義)
2. 国際福祉とは何か (定義)
3. 国際福祉の生成展開過程 (歴史)
4. 国際福祉の実践課題 1 難民問題
5. 同 上 2 HIV・エイズ問題
6. 同 上 3 在日外国人問題
7. 同 上 4 <南>の貧困問題
8. 同 上 5 バングラデシュの村落および都市開発
9. 国際福祉の理論課題 1 国際福祉の存立根拠 脱主権国家化、グローバル・ミニマム、地球市民社会
10. 同 上 3 「福祉と国家」の再定義
12. 福祉の人的基礎 1 《美》《魂》
13. 福祉の人的基礎 2 《悲》《愛》
14. 授業の振り返り
15. まとめ

評価

ペーパーテスト（40点）、毎授業時のリアクション・レポート（30点）、授業に対する意欲・関心・態度（30点）。
総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 講義レジュメを読んでおくこと。不明な点や意見があれば、次回の授業時に質問されたい。

【事後学修】 授業後、不明な点が解明されたかどうか振り返り確認し、さらに疑義や意見があれば次回の授業で表明できるようにまとめておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 教科書は使用しない。「講義レジュメ」を事前に配布する。

【参考図書】

1. 岡田徹他編 『コミュニティ福祉学入門』 有斐閣 2005年 2600円＋税
2. 岡田 徹「国際社会福祉の歴史的動向」（中村優一・一番ヶ瀬康子編『国際社会福祉』（「世界の社会福祉」第12巻、旬報社、2000年2月、23～82頁）
3. 岡田 徹「魂を透過した《美》たちへの旅 もうひとつの福祉」（立教大学『コミュニティ福祉学研究紀要』第13号、2011年3月、221～268頁）

科目名	ケア論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする意味では本授業は社会福祉基礎科目として位置づけられる、本科目は社会福祉の ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探究していくことをねらいとする。またケアリングと癒し (ヒーリング) の関連についても考察する。 ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べるができる。

内容

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	根源的なケア経験、ケアの動機 (ロロ・メイ、鷺田を例として)
4	メイヤロフのケアリング論 (概要)
5	メイヤロフのケアリング論 (展開 1)
6	メイヤロフのケアリング論 (展開 2)
7	ロジャーズのカウンセリング論との関連
8	事例から学ぶケア 1 : 介護
9	事例から学ぶケア 2 : ターミナルケア (キューブラロス、ミンデル)
10	生活の中の身近なケアリング
11	ケアと死：広井のターミナルケア論から
12	ケアリングとヒーリング：映画『千と千尋の神隠し』から
13	ケアリングとヒーリング：ケイローンの神話から
14	ケアする人の成長
15	まとめ

評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】広辞苑や英和辞典でケア (care) の辞書的意味やその語源を調べておく。

【事後学修】メイヤロフのケアの定義について確認し、授業で関心を持ったケアに関連する概念について調べまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】は使用しない。資料は授業中に配布

【推薦書】

ロロ・メイ 『愛と意志』 誠信書房

メイヤロフ 『ケアの本質』 ゆみる出版

鷺田清一 『聴くことのか』 阪急コミュニケーションズ

広井良典 『ケア学』 医学書院

科目名	福祉住環境論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 様々な実習を経験する直前、直後の授業に受けることが望ましい授業である。実習での経験を、一過性のものにするのではなく、住環境の支援技術について当事者として考察する。毎回、コンピュータを用いた知覚心理実験を行うため、コンピュータに対する極端な拒絶反応がないことが望ましい。

科目の概要 日常生活における住環境を考える上で、生活者の視点に立つことの重要性を理解する。特に、感覚、知覚の中でも視覚を取り上げ、生活者の視覚の観点から住環境を支援するための技術を学ぶ。視覚に関する、福祉学的考察、生活学的な考察、心理学な考察、言語学的な考察を行う。視覚が中心であるが、聴覚、触覚に関しても必要に応じて取り上げる。

学修目標 (= 到達目標) 日常生活における生活者の視覚の重要性に興味を持ち、その視点から住環境を改善することを常に意識するようになることを目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	視覚心理学的な考察を行う。
3	視聴覚の相互作用の面から考察を行う。
4	タイポグラフィーなど、読みに関する言語学的な考察を行う。
5	視覚を学ぶためには、色の物理学的な知識がどうしても必要である。その初歩を学ぶ。
6	視覚を学ぶためには、色の数学的な知識もどうしても必要である。その初歩を学ぶ。
7	ランドスケープについて学ぶ。
8	画像の機械認識を学ぶ。
9	動画の機械認識を学ぶ。
10	日常生活における視覚の重要性について考察する。
11	日常生活、特に公共機関の視覚環境の問題点を発見、改善する。
12	日常生活、特に機器の視覚環境の問題点を発見し、改善について考察する。
13	学内の視覚環境について、考察する。
14	視覚と手話との関係について考察する。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート (15 点) を、150 点満点 (15 X 10 点満点) で計算し、90 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】日常生活における道具、建物の観察。1時間

【事後学修】自分の作成したレポートと他者のものとの比較を行う。1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】野島久雄（訳） 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	レクリエーション援助法		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、人と人との出会いや人とのつながりにおいて、とても意味のある科目です。特に、社会福祉サービスにおいてレクリエーションの果たす役割は大きく、注目されています。ここでは、必要とされるレクリエーションの意味と、人々への日常的な楽しさや心地よさを提供する、援助者としての役割について学んでいきます。また、援助者が身につけるためのコミュニケーション技術としてアイスブレーキングやホスピタリティ (心地よさ・人間関係能力) を演習します。これらは、介護コースの科目であるレクリエーション活動援助法につながる、基本的な学修と言えます。また、人間福祉学科専門科目のレクリエーション援助論と、同時開講となるため、理論についても学修していきます。

学修目標は、下記の5点です。

1. 人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深める。
2. レクリエーションは、健康づくりをはじめ社会福祉や教育、地域づくり、環境に至るまで幅広い領域で活用されていることを理解し、援助者としての役割を学修する。
3. ノートやファイルなどを有効に活用し、資料作成を行うと共に、毎時間ごとのふりかえりや記録をとることの重要性を理解する。
4. レクリエーションにおけるホスピタリティについて理解し、声かけや態度・行動を身につける。
5. コミュニケーション技術に必要な素材やアクティビティを体験し、人前で提供出来るようになる。

内容

1	はじめまして 出会いの喜び アイスブレーキングの体験プログラム
2	レクリエーションの意義
3	レクリエーションと社会福祉について
4	レクリエーションの支援 利用者と援助者のあり方について
5	福祉レクリエーション援助のプロセス
6	福祉レクリエーション援助のための技術と方法 アクティビティの実際
7	援助者のためのコミュニケーション技法
8	個別レクリエーション援助の立案と方法
9	集団を介したレクリエーション援助の方法
10	レクリエーション援助におけるホスピタリティの重要性
11	地域とレクリエーションの取り組み
12	プログラム計画と展開法
13	対象に合わせたプログラム作り
14	プログラムのアレンジ法
15	まとめ

評価

課題・レポート20% 演習発表20% 筆記試験40% 授業態度20% 60点以上を合格とします。合格点に満たな

かった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】毎回、レクリエーションアクティビティの資料を配布するので、予習しておく。

【事後学修】いつでも人前で、アクティビティが提供できるよう、練習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は、特に使用しない。必要に応じてプリントを配布。

推薦書 福祉士養成講座編集委員会編集 新版 介護福祉士養成講座 第3版 レクリエーション活動

援助法 中央法規出版 (財)日本レクリエーション協会監修 福祉レクリエーションシリ

ーズ 全3

巻 中央法規出版

ホスピタリティをみかく本 ホスピタリティトレーニング研究会 遊戯社

参考図書 レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

その他必要に応じて、随時教室で紹介する

科目名	介護基礎（応用）		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

社会福祉コースの学生が、選択科目として、介護の知識と介護技術の応用を学ぶ科目である。介護に関心がある学生や、高齢領域や障がい領域への実習を希望している学生に履修してほしい科目である。

科目の概要

高齢や障がいにより支援が必要な人が、人生の主体としていきと暮らしていくために、支援者が身に付けておくべき知識や技術を学ぶ。年齢特性や障がい特性に応じた生活支援技術を学ぶ。

学修目標

1. 利用者主体の介護を理解できる
2. 利用者の尊厳を支える生活支援プロセスを習得する
3. 清潔の介助、移動の介助、排泄の介助に関する技法を習得する

内容

1	ガイダンス 介護技術を学ぶ意義
2	清潔の意義と理解
3	足浴の介助方法とフットケア
4	口腔ケアと整容
5	視覚に障がいがある人の社会参加の支援
6	ブラインドウオーク体験
7	聴覚に障がいがある人の社会参加への支援
8	移動の介助の理解
9	歩行介助の実際
10	安楽な体位への介助
11	ベッドから車いすへの移乗
12	排泄の介助の理解
13	トイレ介助の方法
14	おむつ交換の方法
15	まとめ

評価

授業への取り組み 20点、レポート 20点、筆記試験 60点とし、総合評価 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予定表に基づきテキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。

【事後学修】配布された資料をノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴田範子編 介護福祉士養成テキストブック「生活支援技術」ミネルヴァ書房

【推薦書】井上千鶴子編 介護福祉士養成テキストブック「介護の基本」ミネルヴァ書房

科目名	ユニバーサルデザイン論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする福祉機器論よりも、対象を情報機器に分野を絞った科目になる。また、心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。本科目では、特にマニュアルを取り上げ、有効なマニュアルの条件について考察したい。

学修目標 わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

内容	
1	オリエンテーション
2	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (1) 情報の部分性
3	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (2) 言語
4	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (3) 記憶
5	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (4) 情報検索
6	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (5) 視覚
7	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (6) 聴覚
8	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (7) 触覚
9	情報機器を使うことの難しさ (1) ヒューマンエラー
10	情報機器を使うことの難しさ (2) ユーザが自分の責任にしがちである現状
11	情報機器を使うことの難しさ (3) メニュー、アイコン、専門用語
12	情報機器を使うことの難しさ (4) 学習の停滞
13	情報機器を使うことの難しさ (5) プロダクションパラドックス
14	マウスやキーボードの使い方を説明する、実際のマニュアル作成をする
15	まとめ

評価

毎回提出してもらうレポート、150点満点 (15回X10点満点) で、90点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布する

推薦書かつ参考図書 野島久雄（訳） 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間福祉学科専門科目の社会福祉展開科目に位置づけられている。また、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。他学科開放科目としている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を發揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復を図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

1. リハビリテーションの理念が理解できる。
2. 障がいの受容プロセスが理解できる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

1	リハビリテーションとは
2	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
3	障がいの概念とリハビリテーション
4	障がいの受容過程
5	ライフサイクルとQOL
6	死別とグリーフワーク
7	子どものリハビリテーション 子どもの障がいの基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 発達障がい (広汎性発達障がい)
10	子どものリハビリテーション 発達障がい (学習障害と注意欠陥/多動性障害)
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（10%）、レポート（20%）、筆記試験（70%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各単元について、教科書を事前に読んでおきましょう。また、障がい者支援に関連したTV番組を見るようにしてください。

【事後学修】各単元終了後に、学生という立場でできることは何であるのか、考えまとめておきましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには 』 中央法規 492.9/R

科目名	家族生活論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科専門科目「社会福祉関連科目」のうち2年次以上配当選択科目である。

科目の概要

生活の基本単位である家族という小集団と、そこでの人間関係の特徴を理解する。家族は、男女が結婚することによってつくり、子どもの誕生によって成員を増やし、やがて子どもが独立することで規模を縮小し、最後は老夫婦のいずれか一方の死によって消滅するという、ライフサイクルを持っている。ライフサイクルのそれぞれのライフステージには、それぞれの生活課題がある。近年、わが国では未婚晩婚化、晩産化が進み、ライフサイクルの平均像が大きく異なっている。本科目では、家族形成のあり方、家族の構造と機能について、その基本的な捉え方を学ぶとともに、その今日的な変化を実証的に確認する。

学修目標

家族という小集団の構造と機能、夫婦関係および親子関係について、社会調査のデータから客観的に論じられる力を身につける。

内容	
1	家族の捉え方 1：家族の定義
2	家族の捉え方 2：家族と世帯
3	家族の形態 1：核家族
4	家族の形態 2：家族の種類と分類
5	家族の形態 3：家族構成の変化
6	結婚 1：異性交際と配偶者選択
7	結婚 2：結婚の意味と機能
8	結婚 3：結婚の変化
9	家族の発達 1：家族のライフサイクル
10	家族の発達 2：ライフサイクルの変化
11	家族の内部構造 1：家族の役割構造と勢力構造
12	家族の内部構造 2：家族の情緒構造
13	家族の機能 1：子どもの社会化
14	家族の機能 2：老親扶養
15	総括

評価

授業時の課題30点、学期末試験70点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学内ネットワークの授業用フォルダに置いてあるワークシートで予習する。

【事後学修】ワークシートの解答を確認して、学期末試験に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

湯沢雅彦・宮本みち子（2008）『新版 データで読む家族問題』NHKブックス。

野乃山久也編（2009）『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社。

佐藤博樹・永井暁子・三輪 哲編（2010）『結婚の壁 - 非婚・晩婚の構造』勁草書房。

森岡清美（2012）『「無縁社会」に高齢期を生きる』佼成出版社。

科目名	生活構造論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

社会福祉学科専門科目「社会福祉関連科目」の2年次以上配当選択科目である。

科目の概要

生活とコミュニティ（地域社会）について、生活構造論からアプローチする。そもそも生活とは多義的な概念であるため、生活構造論は多様である。しかしその基本は、個人または家族の生活状況から社会構造を捉え直そうとする、つまり生活者（個人や家族）の主体性に注目している点で共通している。都市化・産業化によって人々の生活水準は向上したが、それは格差社会をつくりだすことにも繋がった。また、生活の質についてはどうであろうか。この科目では、官庁統計や社会調査のデータを用いて、生活者が置かれている生活状況（生活水準、生活時間、生活空間、生活関係）を確認するとともに、地域社会における生活者の主体形成のありかたを考察する。

学修目標

生活者（個人や家族）の主体性に注目し、生活者の生活状況から社会構造を捉えなおす、生活構造論の基本を学ぶ。官庁統計や社会調査データから生活構造を読み解く力を身につける。

内容

1	生活構造 1：生活構造論とは
2	生活構造 2：生活の指標
3	生活水準 1：家族周期と家計構造
4	生活水準 2：消費行動とライフスタイル
5	生活水準 3：階層・階級と格差社会
6	生活時間 1：生活時間の構造
7	生活時間 2：ワークライフバランス
8	生活空間 1：過疎問題
9	生活空間 2：開発と住民運動
10	生活空間 3：都市問題
11	生活関係 1：自治会・町内会
12	生活関係 2：社会的ネットワーク
13	生活関係 3：ボランティア活動
14	生活関係 4：コモンズとまちづくり
15	総括

評価

授業時の課題50点、学期末のレポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時の課題提出のために準備する。

【事後学修】授業時の課題を復習して、学期末レポートの作成に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

三浦典子、森岡清志、佐々木 衛 編（1986）『生活構造』（リーディングス日本の社会学5）東京大学出版会。

堤マサエ、徳野貞雄、山本 努 編著（2008）『地方からの社会学』学文社。

科目名	家族と労働法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

女性の家庭生活および職業生活に関わる法律を取り扱います。具体的には民法家族法（親族・相続）の基礎を学び、働く女性を取り巻く環境と法律・制度との関わりについて検討することになります。

科目の概要：

現代の日本社会においては、個人の価値観が多様化し、それに伴い家族生活も多様化しています。これは夫婦別姓、シングルマザー、離婚の増加に現れている通りです。また、少子高齢化の進行は今までにない新しい家族の問題を生んでいます。子のない夫婦の養子縁組や生殖補助医療で子どもをもつことには、親子についての法的な課題も生じます。認知症で判断力の弱った高齢の親の財産関係については、新しく成年後見制度が設けられました。また、家庭を持ちながら働く上でライフ・ワーク・バランスという考え方も注目されてきています。女性が家庭生活と職業生活を営む上で法律の果たす機能と、課題についても考察します。

学修目標

この授業では、家族法の基礎知識の習得をし、現代の職業人が家族生活を営む上で課題をめぐる法制度状況について理解を深めることを目的とします。また、知識取得のみならず、適宜事例について検討し、各自が意見を書いたり、演習問題を解くことを通じて論理的思考力や課題解決力の養成も目指します。

内容

1	家族問題と法
2	婚姻と法
3	婚姻と財産
4	離婚と法
5	離婚と財産と子ども
6	親子
7	内縁と認知
8	家族法の現代的問題
9	氏と戸籍
10	扶養・成年後見
11	相続 相続人と相続財産
12	相続 法定相続
13	遺言・遺留分
14	働く女性と法
15	総括

評価

提出物・受講態度（50点）、ペーパーテスト（50点）を総合して評価します。

100点満点中60点が単位取得の下限です。

授業外学習

【事前予習】課題（授業中指示された課題、資料を読む等）の準備をする

【事後学修】学んだことを踏まえ、家族と法の課題について関心と理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『家族の法[第3版]』 利谷信義（有斐閣）

【参考図書】『デイリー六法』（三省堂） その他の六法も可

科目名	生活と政治行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

政治・行政などに関わる基礎知識を日本の課題・ニュースなどの時事問題に関連付けながら学ぶ

科目の概要

政治的決定のルール、行政のしくみ、インターネットと政治行政、時事問題などを学ぶ。現在の課題 (例えば、景気問題、少子高齢化と福祉の問題、財政赤字、憲法改正、原発再稼働、TPP、安全保障など) がどのように決められていくか、どのように決めていくべきかを考える。

学修目標 (= 到達目標)

現在の日本の課題を題材として政治行政の基礎知識を修得するのみでなく、その知識を生かして解決策を論じる力を身につけることを目標とする

内容

- 1 ガイダンス 現在の日本を取り巻く諸問題と政治行政
- 2 現代日本政治の諸問題 安部首相の目指すもの-積極的平和主義、戦後レジームからの脱却、安全保障、外交
- 3 現代日本政治の諸問題 景気対策とアベノミクス、財政赤字、雇用問題
- 4 財政赤字と諸問題 財政赤字、福祉国家論と小さな政府
- 5 財政赤字と諸問題 財政危機と社会保障、地方自治体と社会保障、景気対策、ヨーロッパ・アメリカ
- 6 政治・行政とは 政治のしくみ-国会・内閣、議院内閣制・大統領制-
- 7 政治・行政とは 行政のしくみ-中央省庁・地方自治体の役割-
- 8 前半まとめ
- 9 政策決定システム 選挙と政権交代、与党と野党、官僚制度、長期政権と1年で交代する政権の違い
- 10 政策決定システム 法律ができるまで
- 11 政策決定システム 予算ができるまで
- 12 インターネットと政治 世論、ネット世論-SNS・掲示板、ネットと選挙と法規制
- 13 インターネットと行政 電子政府、国民総背番号制、個人情報漏えい
- 14 生活と政治行政 TPP、規制緩和、雇用問題、原発再稼働問題と「地方の合意」
- 15 後半まとめ

評価

小試験2回など(70%)、平常点(30%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に予告された授業内容、政治行政に関連する時事問題等について予習する

【事後学修】授業で学習した内容を復習し、それについての自分の意見・考え方をまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】堀江湛『政治学・行政学の基礎知識 第3版』一藝社
岩井奉信『立法過程』東京大学出版会

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

学修目標（=到達目標）

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字（ア～サ行）
5	名前に関する表現
6	指文字（タ～ハ行）
7	趣味に関する表現
8	指文字（マ～ワ行）
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】 授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】 ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目ではエッセイや詩、小説など多様な文章形態の基礎を学び、文章表現に必要な知識と技術を養うことを目的とします。さらに国内外の文芸作品の読解を通じて、様々な価値観と世界観を理解し、視野と思考を広げることを目的とします。

創作を構造的に理解する一環として、物語について学びます。物語の成立に必要な要素を知ること、小説読解への思考を深めることを目指します。

これらを踏まえて、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。さらに自分の選んだ文章形態で創作し、冊子としてまとめることを発展的目標とします。

科目の概要

創作することを念頭に様々なタイプの文章を読み、対象、内容、構成の違いを学びます。エッセイでは表記の基礎、テーマと構成（3, 4, 5）、詩では言葉の表現力（6）、小説では物語をベースに個々の作品読解を通じて構成、テーマ、描写（7, 8, 9, 10, 11）への理解を深めます。

学修目標（=到達目標）

多様な文章形態の構造を理解し、言葉による表現の特性を学びます。

物語の文法を理解し、創作に必要な構造的理解を深めます。

講義のアウトプットとして、創作作品を冊子にすることを目指します。

内容

1	ガイダンス	言葉による表現について
2	観察と写生	文章を書く
3	エッセイ	表記の基礎
4	エッセイ	テーマと構成
5	エッセイ	文体とエピソード
6	詩	イメージを言葉にする
7	小説	創作について
8	小説	構成を理解する
9	小説	テーマと材料
10	小説	関係性の描写と情景描写
11	小説	内面の描写
12	書評	客観性について
13	創作の構想	
14	演習	
15	まとめ	

評価

各回の授業取り組みと課題提出などで60点、演習で40点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】授業で取り上げる作品または関連する事項（作家や同じ文章形態の作品など）に当たってください。

【事後学修】授業および配布された資料を基に、興味関心を持った点（作品や作家、同時代の事象など）についてアプローチをしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定せず、授業内でレジユメ及び資料を配布します。

【推薦書】授業内で適宜紹介していきます。

【参考図書】授業内で適宜紹介していきます。

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

社会福祉関連 専門科目

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。身体・認知・情緒などの諸側面から発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深め、臨床や実践活動のための基礎知識を身につけることを目標とする。また、生まれたばかりの状態から「人になっていく」過程を知ることによって、乳幼児期が人の一生のなかでどのような意味をもつのか考えるきっかけとなることを目指す。講義形式の授業とするが、適宜映像視聴や小レポートを実施する予定。

学修目標

- ・乳幼児期の身体発達について説明できる
- ・乳幼児期の知覚と認知の発達について説明できる
- ・乳幼児と養育者の関係の発達について説明できる
- ・幼児期の仲間関係や社会性の発達について説明できる

内容

1	乳幼児期とは
2	新生児の能力
3	身体・運動の発達
4	乳児期の認知発達
5	幼児期の認知発達
6	個性の発生
7	「自己」への気づき
8	愛着と親子関係
9	愛着と親子関係
10	他者との関係の発達
11	情緒と感情の発達
12	言語とコミュニケーションの発達
13	遊びと想像性
14	年齢別の発達の様相
15	まとめ

評価

平常点10点、授業時の小テスト・小レポート30点、期末試験60点。合格点60点。

授業外学習

【事前予習】取り上げるテキストの内容を事前に読み、疑問点などをまとめておく

【事後学修】テキストを見直しながら、小テストへの取り組みを行ったり、授業内容の振りかえりを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 繁多進「乳幼児発達心理学」福村出版

[推薦書] 柏木恵子他「新版発達心理学への招待」ミネルヴァ書房

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	加藤 陽子、綿井 雅康、伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

障害の状態にある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

科目の概要：

各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

学修目標 (= 到達目標)：

1. 障害の理解。
2. 各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
3. 上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 障害とは
- 3 自閉^ス外^ム症児・者の心理学的特徴と支援 (1)
- 4 自閉^ス外^ム症児・者の心理学的特徴と支援 (2)
- 5 限局性学習症児・者の心理学的特徴と支援
- 6 注意欠如/多動症児・者の心理学的特徴と支援
- 7 知的発達症児・者の心理学的特徴と支援
- 8 視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者の心理学的特徴と支援
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援
- 11 各障害児・者の心理学的特徴と支援のまとめ
- 12 グループ発表 (1)
- 13 グループ発表 (2)
- 14 グループ発表 (3)
- 15 まとめ

評価

100点満点中、日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書あるいはプリントの該当ページを予め読んでおいてください。

【事後学修】講義終了時に毎回課題を出しますので、それに基づいて当該講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回授業時に指示します。

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格

本科目は、現在の我が国における、中高年期の人々が直面している諸課題について、その問題を自らに引き寄せて、実感を伴った「想いを馳せる」作業を行うように設計されている。特に、女子学生が受講することを前提に、女性であるからこそ、これから来る自らの中年期と高齢期の生活を、どのように過ごし得るのかに関し、将来的に有用な手掛かりになることを目指して開講する。

2. 科目の概要

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点からみた場合に少数派であることであったりと多様である。本科目は、このような前提にたち、中年期と高齢期に、様々に直面する課題について、具体的な題材を手掛かりに、自らの在り方を内省する作業を通し、その現実への対処方策を、それぞれの未来に向けて獲得することを目的とする。

3. 学修目標

本科目は、1) 中年期と高齢期の特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか？、2) そのような不利益を被りながら生活する中高年者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか？、3) 社会的な不利益を被りがちな中高年者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか？、の3点の獲得を、学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。

学習は、まず、題材に関するペアワークの形式により行う。次に、ペアワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、各開講回別に取り上げる題材の内容は以下の通りとする。

1	ガイダンスと「中高年期の生活の概要」：我が国の中高年期の生活の概要
2	「幼少期に発病することと支え合う想い」：小児病棟における子ども同士のかかわりあい
3	「幼児虐待・児童虐待と自分」：児童虐待に苦しむ加害者の痛み
4	「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実と家族内での親に対する役割期待
5	「優性思想と自分」：優性思想とハンセン病回復者に対する断種手術の現実
6	「パートナーシップと自分」：ハンセン病回復者の家族へのあり方
7	「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差
8	「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常
9	「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆き
10	「里親制度と血縁の意味と自分」：自動的に血縁対象を愛するようになるものなのか？
11	「女性に対する差別と自分」：インドの中流階級における「結婚持参金殺人」の現実
12	「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実
13	「不妊治療・生殖医療の現実と新たな生命」：中年期の晩婚親側の論理と生命倫理

14	「代理出産ビジネスの現実と経済的格差による女性の尊厳への搾取」：経済的誘惑の実情
15	学習のまとめ：「暴力の連鎖と自分（非暴力・市民的不服従の観点から）」

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『ペアワークへの取り組み姿勢』と『毎回の小レポートの内容』を指す。成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(ペアワークへの取り組みと毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート』が30点、の構成にて配点し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 次回の講義内容に関し、事前に発想を深めてほしいポイントを提示し、講義回当日のペアワークの基礎とする予習を課します。

【事後学修】 毎講義内に提示する題材について、教員が示した論点から題材を振り返りの課題を課します。「振り返り」の結果は、毎回「小論文形式のレポート」にて提出を求め、評価に含めます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

- 「Days Japan 2008年6月号（特集：処分されるペットたち）」
- 「Days Japan 2008年9月号（特集：結婚させられる少女たち）」
- 「Days Japan 2009年5月号（シオラレオネ出産の悲劇ほか）」
- 「Days Japan 2009年10月号（特集：カンボジア地雷探知犬が救う命）」

科目名	対人社会心理学		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会心理学の中でも、特に他者との関係や相互作用に注目した科目である。

科目の概要

対人社会心理学とはなにか (講義1)

恋愛関係を主とする親密な関係の構造と進展 (講義2,3,4,5)

他者とのコミュニケーション (講義6,7,8,9,10)

他者への行動 (講義11,12,13,14)

学修目標 (= 到達目標)

人間関係についての心理学的な知識を身につけ、更にその知識を現実場面で応用できるようにすることを学修目標とする。

- ・親密な他者の関係を客観的に見られるようにする。
- ・他者とのコミュニケーションについての知識を身につけ、その知識に基づく行動を現実場面でとれるようにする。
- ・攻撃や排斥のような他者を傷つける行動と援助やサポートのような他者を助ける行動に影響する要因を理解する。

内容

1	対人社会心理学とは何か
2	親密な関係の構造
3	親密な関係の発展
4	親密な関係の葛藤
5	親密な関係の崩壊と喪失
6	自己開示と自己呈示
7	ソーシャルスキル：話を聴く
8	ソーシャルスキル：自分を主張する
9	要請承諾
10	説得
11	攻撃
12	排除
13	援助
14	サポート
15	まとめ

評価

各テーマごとの課題 (30%)、試験 (70%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

ただし1/3以上の欠席は単位不認定とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱うテーマについて、興味のある点を見つけ出す。

【事後学修】レジユメを読み返し、学習内容を理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する

【参考図書】セレクション社会心理学 サイエンス社

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

授業外学習

- 【事前予習】次に取り上げる内容について書籍、検索などを使って自分で調べてくる
- 【事後学修】学習内容についてノートを整理し、復習する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（=到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	柘崎 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。